

香芝市複合施設整備基本計画



令和8年10月



香芝市
Kashiba City

目次

1 背景と目的	1
(1) 基本計画策定の目的	1
(2) 整備予定地の概要	1
(3) 整備予定地周辺に立地する施設	3
(4) 関連する計画等	5
ア 第五次香芝市総合計画（令和3年度から令和14年度まで）	6
イ 第三次香芝市生涯学習推進基本計画（令和4年度から令和15年度まで）	7
ウ 香芝市都市計画マスタープラン（平成30年3月）	8
エ 香芝市立地適正化計画（令和6年12月）	9
オ 香芝市公共施設等総合管理計画（平成28年11月 令和4年3月改訂）	
香芝市公共施設再編計画（平成29年3月）	11
(5) 参考とした他市事例	12
ア 大和市文化創造拠点 シリウス（神奈川県大和市）	12
イ 丸亀市市民交流活動センター マルタス（香川県丸亀市）	12
ウ 東大阪市文化創造館（大阪府東大阪市）	12
(6) まとめ	13
2 整備目的の整理	14
(1) 機能集約と多機能化	14
(2) 世代を超えた交流、学習の場	14
(3) 都市拠点性	14
(4) 持続可能性、経済性	14
3 整備目標と基本コンセプト	15
(1) 名称	15
(2) 整備目標と基本コンセプト	15
4 複合施設の整備計画	17
(1) 複合施設の全体像	17
(2) 導入機能及び規模の検討	18
ア 音楽ホール機能	18
イ 図書館機能	23
ウ 貸室機能	26
エ 多目的スペース機能	30

オ	博物館機能	3 1
カ	キッズルーム機能	3 3
キ	商業施設誘致スペース	3 5
ク	共用部	3 6
ケ	駐車場機能	3 8
コ	整備予定地の範囲	3 9
サ	その他	4 1
(3)	複合施設整備イメージ	4 2
(4)	Z E B（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の検討	4 4
(5)	概算工事費の検討	4 4
(6)	事業手法及び運営方式の検討	4 4
ア	事業手法の種類	4 4
イ	各事業手法の比較表	4 5
ウ	事業手法の検討結果	4 6
エ	運営方式の種類	4 6
オ	各運営方式の比較表	4 7
カ	運営方式の検討結果	4 7
(7)	今後のスケジュール	4 7
5	市民意向調査、ヒアリングについて	4 9
(1)	目的、位置付け	4 9
(2)	市民アンケート、ヒアリングの概要	4 9
(3)	市民アンケートの分析	4 9
ア	音楽ホール機能	4 9
イ	貸室・多目的室機能	5 2
(4)	ヒアリングの分析	5 5
ア	音楽ホール機能	5 5
イ	貸室・多目的室機能	6 1
ウ	図書館機能（運営側）	6 3
エ	博物館機能（運営側）	6 4
6	今後の設計への課題	6 6

1 背景と目的

(1) 基本計画策定の目的

香芝市では、昭和50年代以降の人口増加に伴ってその需要に応えるために整備された多くの公共施設が老朽化し、現在、大規模改修による長寿命化や建て替え等で順次更新の時期を迎えている。また、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センターでは、設備の老朽化に加え、利用者の高齢化及び固定化といった課題が顕在化している。

本計画は、除却した旧香芝市モナミホールを始め、香芝市中央公民館や香芝市ふたかみ文化センターについても建物及び設備の老朽化が進んでいること等に鑑み、各施設について個別に建設し、又は改修を繰り返していくよりも、複合施設を整備した上で各施設の機能の維持及び向上を図ることの方が効率的に整備運営することができるものと考えられることなどから、施設そのものの在り方を見直すこととし、新たに文化活動の中心拠点となる複合施設を整備することにより、文化活動及び市民活動の継続性と公共的価値を高めることを目的とするものである。

施設の整備に当たっては、旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センターの機能の集約化及び多機能化を図り、子どもから高齢者までが安心して過ごすことができる場、生涯学習及び地域活動を行うことができる場、地域の人々の郷土を大切にする思いが込められた本市を象徴する場とすることなどを目指していく。

また、施設の複合化に加え、飲食店やカフェ等について民間事業者との連携を図り、より良い市民サービスを提供し、地域の活性化を図り、にぎわいを形成していくことも目標とする。

上記のことを踏まえ、「香芝市複合施設整備基本計画」を策定した。

(2) 整備予定地の概要

整備予定地は、香芝市役所、香芝市総合体育館、既存の文化施設等が集積する地域に位置する香芝市役所南側駐車場を中心とする。交通の利便性に優れているほか、将来的な庁舎建て替えや駐車場再編も見据えた一体的な拠点形成が可能な立地条件を有している。

整備予定地の概要は、表1-1のとおりである。

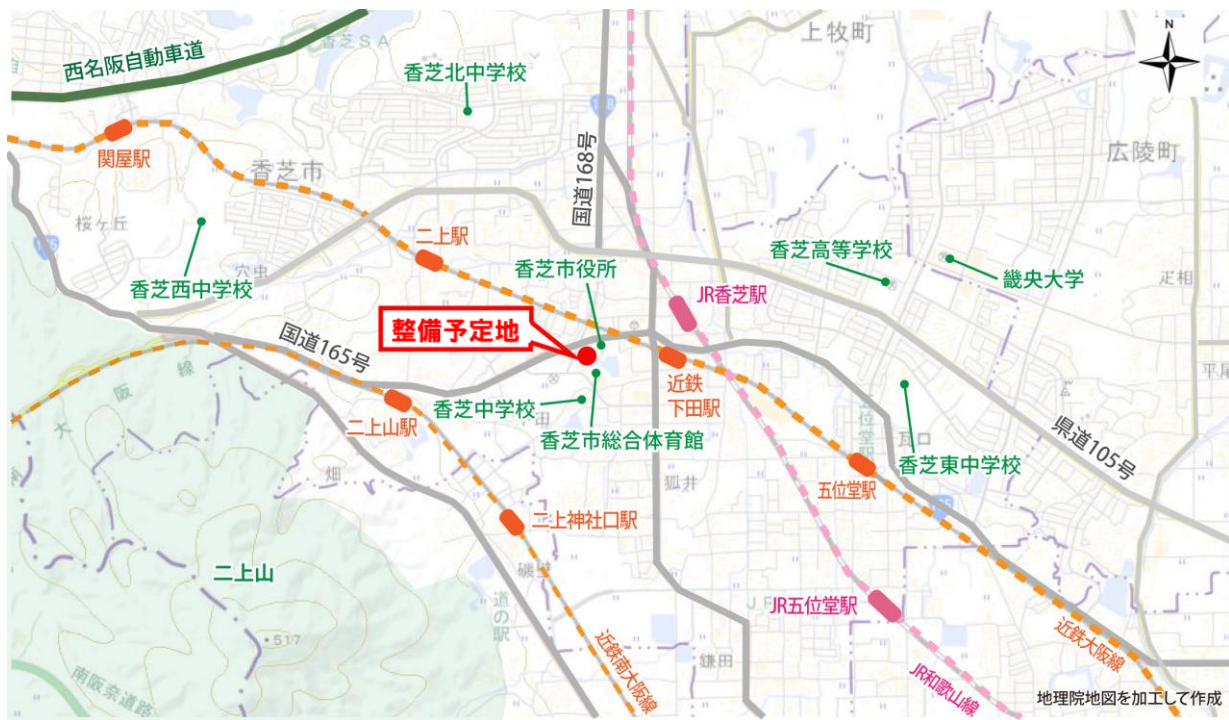


図 1 - 1 整備予定地位置図



図 1 - 2 整備予定地概要図

表 1－1 整備予定地の概要

所 在 地	奈良県香芝市本町 1 3 9 7 番地
敷 地 面 積	約 7, 7 0 0 m ²
区 域 区 分	市街化調整区域
用 途 地 域	指定なし
建蔽率、容積率	建蔽率：7 0 %、容積率：4 0 0 %
接 する 道 路	国道 1 6 5 号、市道 9－1 8 1 号線、市道 9－1 8 7 号線

(3) 整備予定地周辺に立地する施設

整備予定地周辺は、行政機能（香芝市役所）に加え、香芝市総合体育館等の集客施設、福祉関連施設等、多くの公共施設が集積する本市の中心的な拠点である。

平常時は、市民の文化活動、学習活動及び交流活動の場として機能し、行事開催時には広域からの来訪が想定される立地であることから、徒歩、自転車、公共交通、自家用車等、多様な来訪手段への対応が求められる。

また、複合施設が担う文化、学習及び交流の機能は、周辺にある既存の公共施設との役割分担や相互利用を通じて、市民サービスの向上と運営の効率化を図る必要がある。騒音、交通、安全等の周辺の住環境への配慮を含め、計画段階から関係者と調整しながら検討を進める。

民間施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R 和歌山線香芝駅 ・ 介護老人施設（老人ホーム、デイサービス施設） ・ 金融機関 ・ 大学 ・ 大規模店舗 ・ ドラッグストア ・ 飲食店 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近鉄大阪線近鉄下田駅 ・ 香芝郵便局 ・ 保育施設 ・ スーパーマーケット ・ コンビニエンスストア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関 ・ 学習塾
	など		

(4) 関連する計画等

本計画は、香芝市の最上位計画である第五次香芝市総合計画に基づき、香芝市公共施設等総合管理計画、香芝市公共施設再編計画、香芝市複合施設整備基本構想等の関連計画や、香芝市都市計画マスタープラン、香芝市立地適正化計画、第三次香芝市生涯学習推進基本計画等との整合を図りながら策定する。

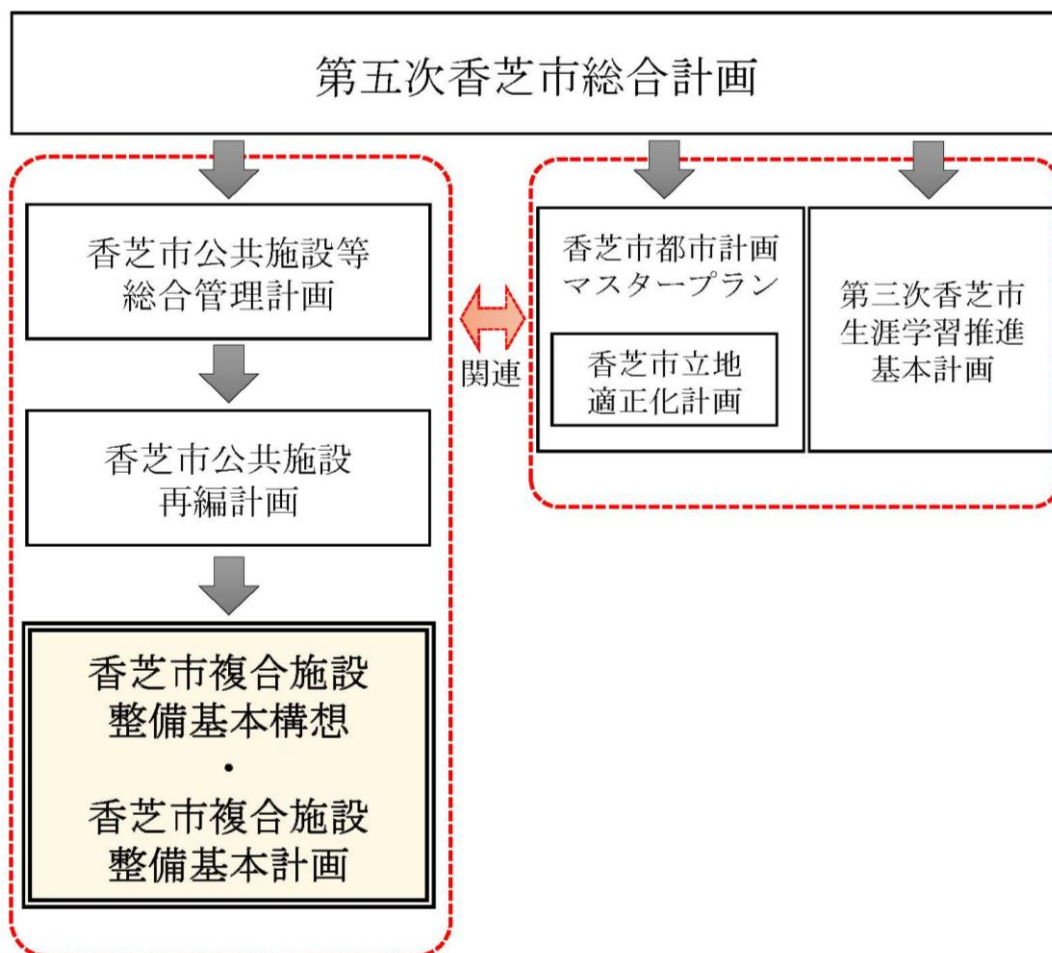


図 1－4 本計画の整理

ア 第五次香芝市総合計画（令和３年度から令和１４年度まで）

香芝市の最上位計画として、第五次香芝市総合計画が位置付けられている。同計画では、笑顔と元気が「もっと」あふれ、「ずっと」続き、まちも人も「色とりどりに」輝き続けることができる香芝市を目指し、「笑顔をもっと 元気をずっと ～誰もが輝く多彩なまち カラフルかしば～」をまちの将来像として掲げている。

複合施設は、この理念を具体化する重要拠点として、市民の交流促進や市街地活性化を担うことが期待される。

◎香芝市が目指す将来像（１２年後のあるべき姿）

- ・ 笑顔をもっと 元気をずっと ～誰もが輝く多彩なまち カラフルかしば～

◎香芝市を取り巻く環境

- ・ 人口減少と少子高齢化の進行
- ・ 経済、雇用環境の変化
- ・ 高度情報化社会の進展
- ・ グローバル化のさらなる進展
- ・ 社会の成熟化に伴う価値観の変化
- ・ 安全、安心な社会の構築
- ・ 持続可能な社会づくりの取組
- ・ 協働の在り方の変化
- ・ 健全な財政運営の実現に向けた取組

◎基本的政策方針

- ・ 未来を創造する子どもたちのために。（子育て、教育）
- ・ 健康で自分らしく過ごせる毎日のために。（健康、福祉）
- ・ 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。（人権、協働、文化）
- ・ まちの活力と魅力の向上のために。（産業、観光）
- ・ まちと人の安全、安心のために。（安全、安心）
- ・ 自然と調和した快適で便利な暮らしのために。（自然、環境、都市基盤）

イ 第三次香芝市生涯学習推進基本計画（令和４年度から令和１５年度まで）

第三次香芝市生涯学習推進基本計画では、「学び合いがつむぐ、誰もが輝くまち香芝」を基本理念として掲げている。少子高齢化や市民ニーズの多様化といった社会背景を踏まえ、誰もが主体的に学び続け、地域と関わりながら成長できる生涯学習社会の実現を目指している。

複合施設は、学習、文化及び情報が集約される生涯学習と交流の拠点として、講座や活動の場にとどまらず、市民同士がつながり、地域課題の解決や新たな活動を生み出す拠点として機能することが期待される。

◎基本理念
・ 学び合いがつむぐ、誰もが輝くまち香芝
◎香芝市の生涯学習における課題の整理（抜粋）
<ul style="list-style-type: none">・ 住宅都市としての特性を踏まえた学習ニーズに応じて、地域の子育て世代や高齢者が学習を通じて生活を豊かにでき、働く世代が働きながら学ぶことで、地域におけるつながりを充実させることができる環境づくり・ 学習活動における施設利用のニーズが多様化しており、既存施設の活用方法を含めて今後を見据えた幅広い検討を行うこと・ 行政、関係機関等や活動者同士の連携、協働をより一層進めていくこと
◎基本目標
<ul style="list-style-type: none">・ 基本目標１：みんなが学べるまち<ul style="list-style-type: none">（１）多様なニーズに応じた学習の環境づくり（２）ライフステージに対応した学習機会の提供（３）文化、スポーツの振興・ 基本目標２：学びでつながり活かすまち<ul style="list-style-type: none">（１）地域コミュニティの充実（２）学校と多様な主体の連携、協働の推進（３）学び合う機会の充実（４）学習成果を発揮する機会の充実

・基本目標３：みんなで学びをすすめるまち

（１）学習環境の充実

（２）多様な手段による学習情報の発信

（３）市民と連携、協働してすすめる生涯学習

ウ 香芝市都市計画マスタープラン（平成３０年３月）

香芝市都市計画マスタープランは、大阪近郊の住宅都市として発展してきた香芝市が、将来の人口減少や少子高齢化を見据えつつ、自然環境や歴史資源を保全しながら、安全、快適で持続可能な都市構造を形成することを目的とした計画である。本計画では、土地利用、道路、公共交通、生活基盤、景観、防災、公共施設配置等について示されている。

複合施設は、住民サービスの向上と地域交流の促進に加え、市街地活性化を担う重要な施設として、市民協働の街づくりや都市機能の集約、拠点性の強化を図る中で、行政、福祉、文化、交流等の機能を集約する地域の中心拠点となることが期待される。

◎都市づくりの基本理念

・笑顔と元気！！ 住むなら かしば

◎都市づくりの課題（抜粋）

・個性のある美しい景観の形成

・にぎわいと活力のある商工業の振興と中心拠点の拠点性向上

・快適な生活環境の確保

◎都市づくりの目標

・地域資源を生かした誇りと魅力ある都市づくり

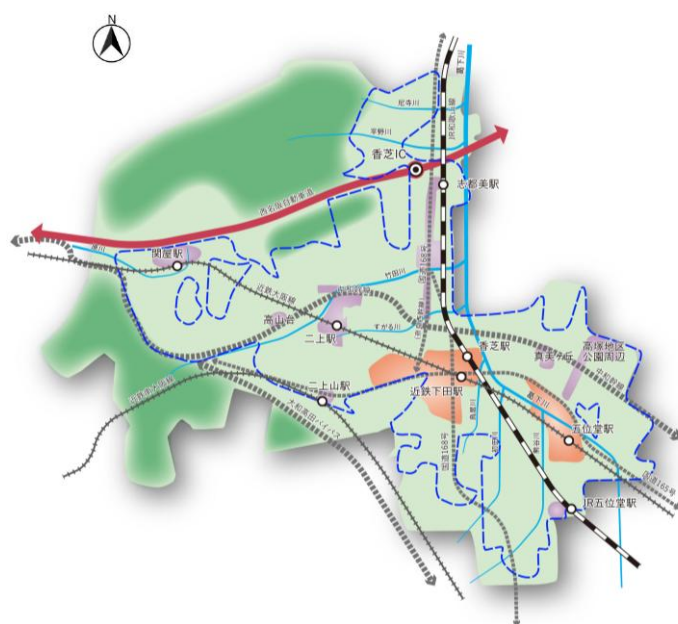
・活力とにぎわいのある計画的な都市づくり

・安全で快適な生活基盤の充実した都市づくり

・市民とともに取り組む協働の都市づくり

◎基本的な方針（抜粋）

- ・拠点を取り巻く快適な暮らしの場の形成
 - （１）拠点周辺への生活サービス機能の誘導による居住の誘導
 - （２）住宅ストックの循環、空き家の発生の予防
- ・元気で求心力のある拠点の形成
 - （１）地域ごとの特性を生かした拠点形成
 - （２）市民ニーズに応じた都市機能の集約
- ・持続可能な都市交通環境の形成
 - （１）複数の交通手段が連携した公共交通サービスの維持
 - （２）モビリティマネジメントの実施による意識醸成
- ・災害に強い安全なまちの形成
 - （１）河川低平地における水害リスクの回避、低減
 - （２）土砂災害リスク等の回避、低減
- ・出掛けたくなる魅力あふれるまちの形成
 - （１）人と人がつながる多様な地域コミュニティの強化
 - （２）近隣市町との連携により、市外からも多くの人が集い、周遊できる仕組みづくり



凡 例		
区域	市域	
	市街化区域	
拠点	中心拠点	
	生活拠点	
連携軸	広域連携軸 (高速道路)	———
	広域連携軸 (道路)	
	地域連携軸 (道路)	
	地域連携軸 (鉄道)	
河川		———

図 1－6 目指すべき都市の骨格構造

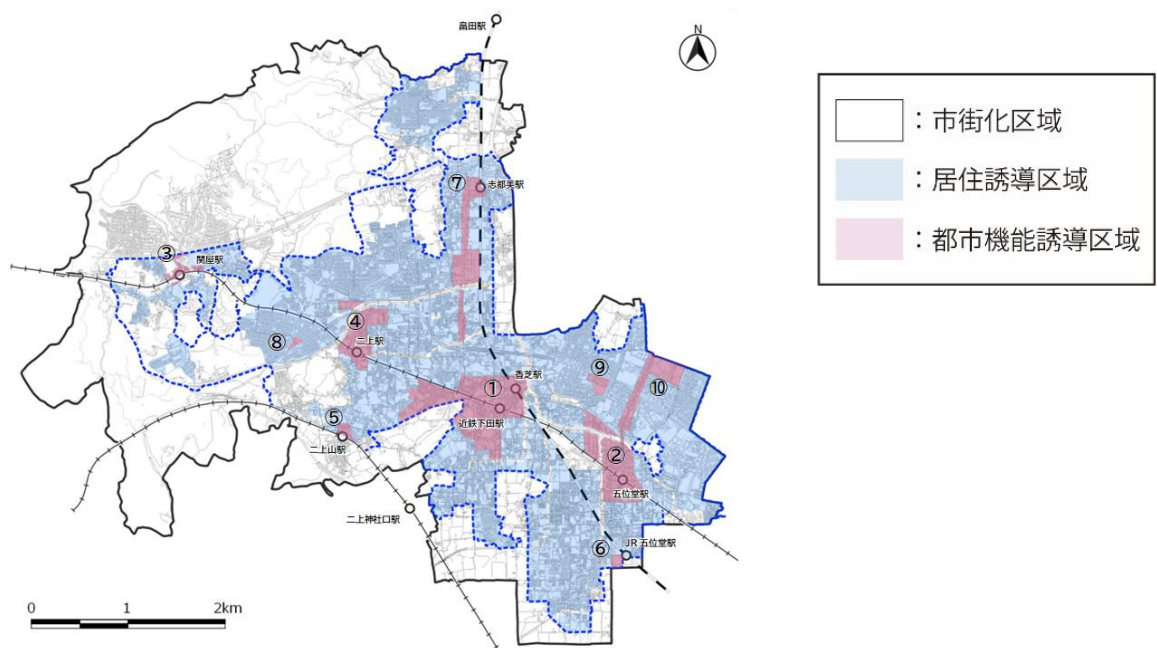


図 1－7 都市機能誘導区域について

オ 香芝市公共施設等総合管理計画（平成 28 年 11 月 令和 4 年 3 月改訂） 香芝市公共施設再編計画（平成 29 年 3 月）

香芝市公共施設等総合管理計画では、施設の長寿命化、集約化及び複合化によるコスト縮減と市民サービスの向上を図るとともに、将来の人口減少や財政制約への対応を基本方針としている。複合施設は、これまで単独で整備されてきた施設の機能を統合し、効率的な運営及び維持管理を実現するモデルケースとなるものである。

同計画は、公共施設の老朽化や将来的に膨大となる更新費用、人口減少、少子高齢化、財政制約といった課題に対応するため、公共施設及びインフラの最適化と持続可能な運営を図る指針として位置付けられている。新規施設の抑制と更新時における複合化及び多機能化を前提とした「施設重視から機能重視への転換」、計画的な維持管理と長寿命化によるコスト縮減並びに民間活力や広域連携の活用を基本方針としている。

複合施設は、各種機能を集約し、多世代交流や地域活動拠点として整備することで、市民サービスの向上と効率化を両立する象徴的な施設となることが期待される。

◎全体方針
<ul style="list-style-type: none"> ・将来のまちづくりを見据えた公共施設の再編と、次の世代に負担を残さないための財政負担の軽減、平準化により、行政サービスの維持、向上を実現する！
◎基本方針（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な維持管理、長寿命化によるライフサイクルコストの縮減及び更新コストの平準化 ・「施設重視」から「機能重視」への転換 ・近隣自治体との連携 ・民間事業者との協働の促進
◎具体的な方策（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・建て替えと大規模改修（長寿命化）の併用、施設の優先順位付け ・ニーズに応じた機能の見直し ・複合化、多機能化 ・民間活用 ・適正な受益者負担の検討

(5) 参考とした他市事例

ア 大和市文化創造拠点 シリウス（神奈川県大和市）

各階の共用部に図書スペースを設けることで、利用者が日常的に立ち寄りやすい施設になっている。

イ 丸亀市市民交流活動センター マルタス（香川県丸亀市）

市庁舎と市民交流センターを一体的に整備し、多様な市民が憩い、にぎわいを生む施設になっている。

ウ 東大阪市文化創造館（大阪府東大阪市）

ホールと併せて貸室やブックライブラリー等を整備することで、多様な利用者が思い思いに時間を過ごせる施設になっている。

(6) まとめ

複合施設は、前記(4)のような関連計画を踏まえ、行政機能や周辺の公共施設と連携しながら、香芝市の中心拠点として新たな役割を担うことが期待される。

音楽ホールや博物館等の文化機能により、市民の日常的な文化活動や学びを支えるとともに、地域の歴史や資源の情報発信を通じて、観光振興や交流人口の拡大に寄与する。また、図書館や共用空間を通じた情報発信や市民交流の場の形成により、世代を超えた活動を生み出していく。

本計画は、老朽化した既存施設の更新にとどまらず、周辺施設と連携することで、香芝市の中心に新たなにぎわいと魅力を創出する契機となるものである。複合施設を通じて、市民の日常的な利用から非日常的な体験までを受け止める都市の核を形成し、将来にわたって市民に親しまれ、活発な活動が継続される拠点となることを目指す。

2 整備目的の整理

「1 背景と目的」で整理した背景や関連計画等を踏まえ、ここでは香芝市複合施設の整備目的の整理を行う。

(1) 機能集約と多機能化

- ・ 旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館、香芝市ふたかみ文化センターの機能を集約し、施設の重複や非効率性の解消を図る。
- ・ 音楽ホール、図書館、博物館、貸室、キッズルーム、商業施設誘致スペース等を備えた多機能な複合施設を整備する。
- ・ 市民サービスの質の向上を図るとともに、運営コストの縮減を目指す。

(2) 世代を超えた交流、学習の場

- ・ 子どもから高齢者までが安心して過ごすことができる場とすることを目指す。
- ・ 生涯学習及び地域活動を行うことができ、文化活動の中心拠点となる場を目指す。
- ・ 地域の人々の郷土を大切に思う思いが込められた香芝市を象徴する場とすることを目指す。

(3) 都市拠点性

- ・ 行政、文化及びスポーツの機能が連携する複合拠点として、都市の核の形成を図る。
- ・ 平常時は、多目的な利用ができ、災害時には、指定緊急避難場所として利用できる空間を確保する。

(4) 持続可能性、経済性

- ・ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化やユニバーサルデザインの導入、ライフサイクルコスト削減を推進する。
- ・ 飲食店やカフェ等の民間事業者との連携や賃料収入の導入により、財政負担の軽減を図る。

3 整備目標と基本コンセプト

(1) 名称

複合施設の仮称は「香芝市文化センター」とする（表記は「(仮称) 香芝市文化センター」とする。）。

正式名称は公募することとし、単なる応募数の多少によることなく、主に以下の事項を考慮して審査した上で決定する。公募に関する詳細は、別に要領又は要綱を定めて実施する。

ア 地域性、本市の文化等との親和性

- ・ 本市の歴史、文化、風土等との関連性があるか。
- ・ 市民が「自分たちの施設」と感じることができるか。

イ 発音や記憶の容易性

- ・ 発音しやすく、音として響きが優れているか。
- ・ 覚えやすいか。

ウ 表記の可読性

- ・ 表記した場合に読みやすいか。

エ 独自性

- ・ 他の施設と混同されにくいものであるか。

オ 将来性、発展性

- ・ 将来的に市外や県外にも施設の魅力を発信することができるか。
- ・ 時代が変遷しても色あせないか。
- ・ 施設の成長や機能の拡大にも柔軟に対応することができるか。

(2) 整備目標と基本コンセプト

「1 背景と目的」で整理した背景や関連計画等を踏まえ、ここでは複合施設の整備目標及び基本コンセプトを設定する。

複合施設は、隣接する香芝市役所及び香芝市総合体育館を含めて、行政、文化及びスポーツの機能が連携する複合拠点としての役割を担い、日常的な市民活動から非日常的な体験まで、多様なニーズに対応できる施設とする。

また、子どもたちを始めとして人々が豊かな情緒や感性を磨き、気軽に立ち寄り居心地よく楽しく過ごすことができ、日頃の学習や活動の成果を発表する場でもあるとともに、本市の文化的な魅力を発信する拠点として機能し、時には音楽活動等の高度な芸術活動を行うことができる施設を目指す。

さらに、ホールや図書館の部分については、施設自体が芸術性を備え来場者に強い印象と感動を与える空間となって、単なる資料の閲覧等の場としての機能を

超えて、空間的な魅力そのものが来場者の再訪意欲を高めるようなものとする
ことが望ましい。そこで、共用部に図書館機能を配置し、施設内の各機能をつなぐ
役割を持たせることで、日常的なにぎわいを創出するとともに、機能同士の連携
を高める。これにより、施設全体の一体感を形成し、市民の共創による文化のス
パイラルアップを図る。また、共用部が図書館機能を兼ねることで、延床面積を
抑え、コスト削減につなげる。

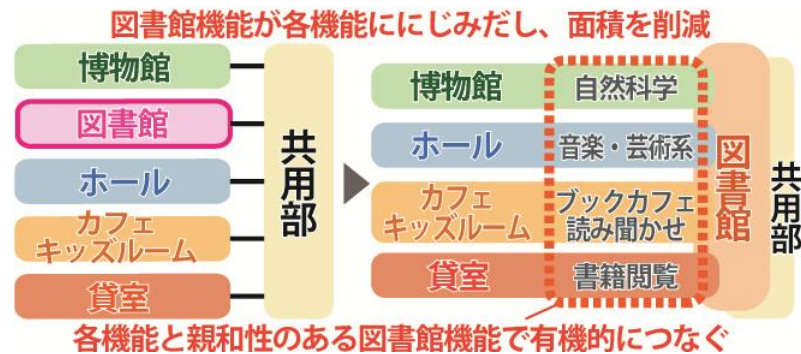


図 3 - 1 図書館機能で各機能をつなぐイメージ

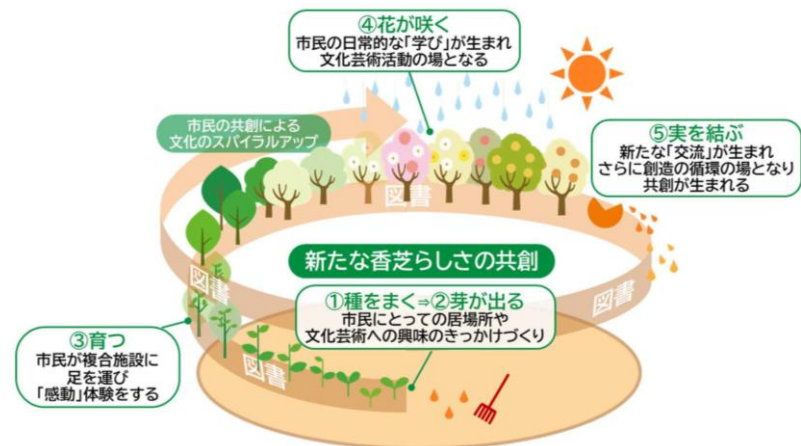


図 3 - 2 基本コンセプトイメージ

4 複合施設の整備計画

(1) 複合施設の全体像

「3 整備目標と基本コンセプト」に示す基本コンセプトに基づき、旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センター（香芝市民図書館、香芝市二上山博物館を含む。）が担ってきた社会教育施設や文化施設としての機能を基本として、音楽ホール、図書館、博物館、貸室、多目的スペース及び共用部を整備する。さらに、施設の利便性や魅力の向上を図るため、キッズルームや商業施設誘致スペースなどの付加的な機能も導入する。

機 能	主な整備予定諸室	基本構想での 整備想定規模 (㎡)	基本計画 整備想定規模 (㎡)	※参考 既存施設規模 (㎡)
音 楽 ホ ール	客席、舞台、舞台設備、 楽屋、リハーサル室等	2, 0 0 0	5, 0 0 0	旧香芝市 モナミホール 1, 6 1 2
図 書 館	開架書庫、 閲覧スペース、 おはなし室、 キッズコーナー、 自習室、 共用部の図書スペース 等	4, 0 0 0	3, 2 0 0	市民図書館 2, 0 3 5
貸 室	会議室、和室、 調理実習室、防音室等	1, 5 0 0	1, 5 0 0	中央公民館 1, 7 1 3
多 目 的 ス ペ ース	展示スペース、 多目的室	5 0 0	5 0 0	—
博 物 館	展示室、収蔵庫、 作業室、研究室等	1, 5 0 0	1, 5 0 0	二上山博物館 1, 0 9 8
共 用 部	交流スペース、事務室、 機械室、階段、 エレベーター等	4, 0 0 0	1, 8 0 0	ふたかみ 文化センター 7, 6 5 9
追加機能	キッズルーム	5 0 0	5 0 0	—
	商業施設誘致スペース	5 0 0	5 0 0	
合 計		約 1 4, 5 0 0	約 1 4, 5 0 0	約 1 4, 1 1 7

基本構想段階では、延床面積約14,500㎡を想定していたが、ホールに求められる必要面積に対して、バックヤードや舞台関連諸室の面積が十分とはいえない点が課題となっていた。このため本計画では、延床面積約14,500㎡という全体規模は維持しつつ、ホールを中心に面積配分の見直しを行い、各機能の規模や構成を再整理している。各機能の想定規模については、今後、概算工事費、運営手法、利用ニーズ等を踏まえ、適宜調整していくものとする。

(2) 導入機能及び規模の検討

ア 音楽ホール機能

(ア) 導入機能の考え方

旧香芝市モナミホールは、約1,000人を収容できるホールとして市民の文化活動等に利用されてきたが、老朽化により令和4年9月末に建物の除却を完了している。新しい音楽ホールの導入検討に当たり、旧香芝市モナミホールが約1,000人規模であったことや、令和7年8月に締結した大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、上牧町、王寺町、広陵町及び河合町における公共施設の相互利用に関する協定に基づく利用状況、音楽ホールの維持管理費等を踏まえ、本市としては約1,000人を収容できるホールを整備することが適正規模であると判断した。

市民アンケートやヒアリングでは、利用規模が1,200人から1,500人までのホールを求める意見も見られた。しかしながら、客席数の増加に伴い施設規模が拡大することで、建設費に加え維持管理費も増加することが想定される。「公共ホールの計画づくりに関する調査研究」(財団法人地域創造、平成12年3月)では、公共ホールの平均維持管理費は延床面積1㎡当たり年間約15,000円とされており、ホール規模の拡大は将来的な運営及び維持管理の負担の増大につながるものと考えられる。

また、周辺自治体の事例を見ると、1,300席以上のホールを有するのは奈良市(人口約34.4万人)や東大阪市(人口約47.9万人)など中核市以上の自治体に限られていた。このことから、人口約7.7万人の香芝市においては、1,300席規模のホールはやや過大であると判断した。

音楽、ダンス、演劇、講演会、式典等に対応できるホールを目指し、市民の意見も踏まえた上で、財政面、稼働率、維持管理等を総合的に判断して、客席数は約1,000席規模を当面の検討の基礎として、具体的な席数、客席構成(1階に全席を設ける場合、2層構成とする場合等)や、舞台設備の優先順位(音響反射板を含めた舞台機構設備、舞台音響、舞台照明設備等)、附帯諸室(楽屋、リハーサル室等)については、今後の設計段階で精査する。

ホールの客席数による特徴				
客席数	延床面積	維持管理費	市民利用	将来の 財政負担
1, 000席	約5, 000 m ²	中程度	使いやすい	中程度
1, 300席	約6, 500 m ²	高い	少し大きい	高い

(イ) 音楽ホール機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定規模 (m ²)	※参考 旧香芝市 モナミホールの 規模 (m ²)
音楽ホール (舞台+客席)	1, 500	1, 100
ホワイエ	550	530
楽屋	250	100
リハーサル室	250	0
その他 (倉庫、共用部分等)	2, 450	1, 251
計	5, 000	2, 981

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性がある。)

(ウ) 施設計画

音楽ホールは、市民文化団体の活動や発表を始め、学校利用や二十歳を祝う会などの式典利用、専門の実演家等による公演まで様々な利用に対応できる多目的ホールとする。市民の文化的な創造活動の実践の場と優れた舞台芸術の鑑賞の場として、利用者が使用しやすく鑑賞しやすいホールを計画する。

客席は音響効果や舞台の見やすさに配慮し、舞台大道具や楽器等の搬入出動線、利用者の動線等、使いやすさにも配慮する。

i 客席

- (i) 客席は、近隣他市町村のホールでは対応が難しい需要に応えつつ、市民利用にも活用できる約1, 000席の固定席を検討の基礎とする。また、ホールは多様な使い方に対応できる1層構成又は2層構成とする。
- (ii) どの客席からも舞台が良く見える配置とし、良好な鑑賞環境となるように整える。
- (iii) 座席自体をゆとりのある客席にするとともに、障害のある人や高齢者、親子での鑑賞に配慮する。

(iv) 持込機材（音響調整卓、調光操作卓等）が設置できるように検討する。

ii 舞台

(i) プロセニウム形式※とする。

(ii) 様々なジャンル、演目に対応できる十分なサイズの舞台を設ける。

(iii) 主舞台サイズは、幅14.5m（8間）×奥行14.5m（8間）程度とし、十分な高さを確保する。

(iv) 舞台袖は、搬入出や出演者の控え場所等に配慮し、上手、下手ともに十分なサイズを設ける。

※ プロセニウム形式とは…舞台と観客席が「プロセニウム（額縁）」によって区切られている劇場形式

iii ホワイエ

(i) 来館者が開演前や休憩時間に憩い、くつろげる空間とする。

(ii) ホールが使われていない時は、多目的な用途に対応できる自由度の高い空間として開放する。

(iii) 十分な数の来館者用トイレ及びバリアフリートイレを設ける。

(iv) 主催者が利用できる控室を確保する。

iv 楽屋

(i) 十分な設備を備え、多数の出演者に対応できる大、中、小の楽屋を確保し、舞台近くに配置する等、出演者の動線に配慮する。

(ii) 楽屋事務室、楽屋ロビー、トイレ（バリアフリートイレを含む。）、シャワールーム、給湯室、楽屋倉庫等を設ける。

v 搬入出口

(i) 11tトラック等の大型車両での搬入出に配慮する。

(ii) 舞台へのスムーズな搬入出が可能な位置とし、十分な動線と荷さばきのためのスペースを確保する。

(iii) 悪天候時や夜間の作業に対処するため、屋内で荷下ろしができるように配慮する。

vi リハーサル室

(i) 舞台芸術活動の練習、本番前の音合わせ、楽器演奏（電気楽器を含む。）、ダンス、演劇等の練習に対応できる空間とする。

(ii) 楽器演奏やダンス等に対応し、防音や振動に配慮した性能を確保する。

(iii) 楽屋や会議室としての使用もできるよう、必要な設備や備品を設ける。

vii 倉庫

(i) 大道具備品や舞台等で利用する音響及び照明機材を収納するための舞台備品庫を、舞台に近い位置に設ける。

(ii) 恒温恒湿に保つことができる良好な環境のピアノ庫を、舞台に近い位置に設ける。

(エ) 音楽ホール機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

I 多くの人々が集まり交わることで、新たな出会いやきずなの芽生えを促すことを目指して、空間や設備を整備する。

II 子どもから高齢者まで多くの人々が気軽に集い、様々な活動を通じて交流を深めることで市民活動とコミュニティの活性化を図る。

III 芸術、文化を通じて、多くの人々が自己表現や自己実現をできる場とするため、展示スペースを整備する。また、図書館等を訪れた人が、これらの活動に触れることができるレイアウトや動線を検討する。

IV 生涯学習やサークル活動のほか、地域活動やイベント等、多目的な用途に対応できる自由度の高い空間としてホワイエを開放する。また、リハーサル室には防音機能を備えることで、周辺環境にも配慮した施設とする。

V 音楽ホール機能と利用者が多い図書館機能との連携を図り、文化、芸術に関する図書を配架し、多くの人々が楽しく学び、活動できる環境づくりを目指す。

整備イメージ



図４－１ 音楽ホール機能の整備イメージ
(大和市文化創造拠点シリウス（神奈川県大和市）)

(オ) 参考（既存施設の概要）

名 称	香芝市ふたかみ文化センター
所 在 地	香芝市藤山一丁目１７番１７号
開 設 年 月	平成４（１９９２）年４月
経 過 年 数	３４年
構 造	鉄筋コンクリート造 地下１階、地上３階（一部ＳＲＣ造塔屋あり）
延 床 面 積	８，５０２㎡
利 用 時 間	午前９時００分から午後１０時００分まで （日曜日のみ午後８時００分まで）
休 館 日	毎月第１月曜日、１２月２８日から翌年の１月４日まで
主 な 諸 室	市民ホール（移動観覧３１０席）、小ホール（移動席５０席）、楽屋（３室）、図書館、博物館、研修室等

イ 図書館機能

(ア) 導入機能の考え方

現在の香芝市民図書館は、図書の貸出サービスやレファレンスサービス等の情報サービスを提供し、市民が知識や情報を得ることを目的に平成4年度に香芝市ふたかみ文化センターの一部として整備した。また、年間で約18万人が利用しており、集客力の高い施設となっている。一方、建設から34年が経過しているため、施設の老朽化に伴う更新、改修の時期が近づいているほか、多様化する情報と市民ニーズに十分に対応するための書架スペース、閲覧席及び学習スペースの不足といった課題に加えて、バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応、駐車場の不足等、様々な施設上の課題を抱えている。

また、人口減少に伴う中心市街地の空洞化や、郊外開発の進行による街の低密度化といった都市の課題もあり、中心市街地に人の流れや都市機能施設の誘導を図ることで、まとまりのある利便性の高い街を形成していく必要がある。

このような背景から、現在の香芝市民図書館を移転することで、市民の生涯にわたる読書、学習活動等を支援するだけでなく、子どもから高齢者まで多くの人々が気軽に立ち寄り、充実した時間を過ごすことのできる「サードプレイス」としての場を提供することを目的として図書館機能を整備する。

(イ) 図書館機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定規模 (㎡)	※参考 既存図書館の規模 (㎡)
開架エリア	2,400	1,160
児童コーナー	100	80
閉架書庫	250	230
事務室、更衣室	200	150
視聴覚室、会議室	50	130
その他(サービスカウンター、倉庫、トイレ等)	200	285
計	3,200	2,035

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性がある。)

(ウ) 図書館機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすい図書館を目指し、他機能との連携や施設全体の統一感に配慮した整備を行う。文化、交流機能との連携においては、前記3(2)のとおり図書館機能を共用部に配置することで、図書が各機能をつなぐ役割を担う。具体的には、博物館周辺に科学や石にまつわる図書を配架するとともに、ホワイエには文化、芸術に関する図書を配架することで、分野横断的な知識への興味や学びを促す。これにより、来館者の知的好奇心や学習意欲を育むとともに、市民の文化活動や交流の活性化につなげる。
- II 多くの人々が利用することを想定して十分な閲覧席数の確保や利用者の動線にも配慮した開放感にあふれる空間を創出することで、誰もが居心地の良さを感じられる滞在型の図書館を整備する。
- III 情報の集積地（知の拠点）としての適切な蔵書数を備えるとともに、地域の歴史や文化といった情報を継承する場とすることで、郷土の再発見につながる機会を提供する。
- IV 現在の香芝市民図書館の蔵書数は約23万冊であるが、複合施設の整備に伴い、30万冊規模まで拡充することを目指す。なお、開架図書及び閉架図書の構成割合については、今後の設計段階において詳細を検討する。
- V グループワーク等の利用形態を意識したにぎわいを生み出す閲覧席、集中して読書、学習に取り組むことのできる静かなスペース等、様々なニーズに対応できる設備を整備する。
- VI 子どもの目線に合わせた配架を行うとともに、読み聞かせ等を行うおはなし室を設けることで、「ワクワク」や「ドキドキ」に出会うことのできる児童コーナーを整備する。また、おはなし室をガラス張りにする等、開放的な空間として整備することで、気軽に立ち寄りやすい環境を整える。
- VII 共用部に貸出図書を配架することを踏まえ、資料の適切な管理及び

セキュリティ確保を目的として、ブックディテクションシステム（BDS）※を設置する。

※ ブックディテクションシステム（BDS）とは…図書館などで、未貸出の本の持ち出しを検知、防止するセキュリティシステム

VIII 電源設備及びW i - F i 環境を整備し、パソコンやタブレット端末等を利用できる環境を確保する。

IX キッズコーナーは、図書館内のおはなし室等と近接した位置に配置し、読み聞かせ等の親子向けの催しを実施できるように工夫する。

X 学習や活動の成果を発表する場として、スクリーンや映像機器を備えたプレゼンテーションエリアを設置する。

整備イメージ

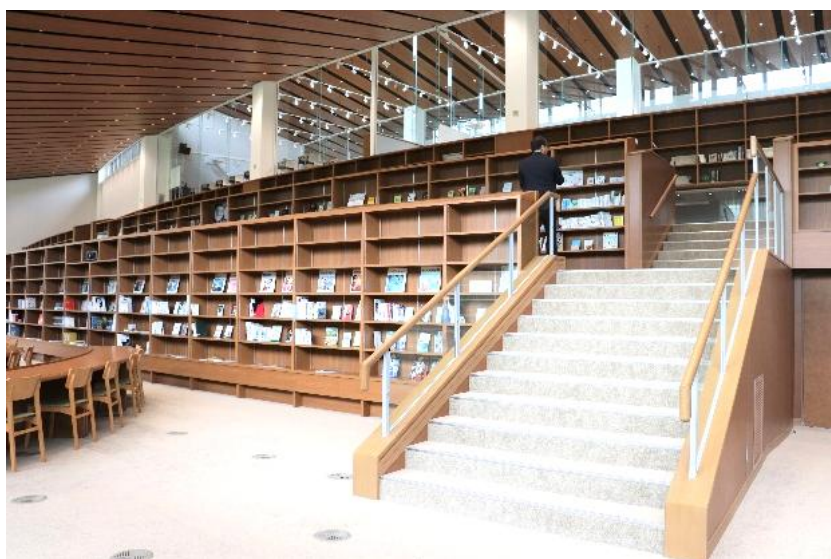


図 4 - 2 図書館機能の整備イメージ（智辯学園奈良カレッジ）

（エ）参考（既存施設の概要）

名 称	香芝市民図書館
所 在 地	香芝市藤山一丁目 1 7 番 1 7 号 (香芝市ふたかみ文化センター 3 階)
開 設 年 月	平成 4 (1 9 9 2) 年 4 月

経 過 年 数	3 4 年
延 床 面 積	2, 0 3 5 m ² （共用部及び自習室を含む。）
利 用 時 間	午前 9 時 3 0 分から午後 5 時 0 0 分まで（金、土曜日のみ午後 7 時 0 0 分まで）
休 館 日	月曜日（祝日の場合は、その翌日で一番近い平日）、毎月第 1 木曜日（祝日及び休館日に該当する場合は第 2 木曜日）、1 2 月 2 8 日から翌年の 1 月 4 日まで、蔵書特別整理期間

ウ 貸室機能

（ア）導入機能の考え方

本施設における貸室機能は、中央公民館が担ってきた社会教育施設としての役割及びふたかみ文化センターが担ってきた文化施設としての役割を継承し、発展させるもので、学びや文化活動を媒介とした地域づくりの拠点を目指す。

現在の貸室は、香芝市ふたかみ文化センター及び香芝市中央公民館内に存在し、文化活動、生涯学習及び地域交流の場として市民に利用されてきた。一方で、経年劣化に伴う施設の老朽化、諸室規模の制約、バリアフリー面の課題、利用形態の多様化への対応等、運営面及び機能面の課題を抱えている。また、社会環境の変化に伴い、市民の学び及び活動のニーズは多様化しており、利用目的（創作、練習及び発表）や活動規模も多様化していることから、市民の活動ニーズに応えられる柔軟な貸室機能を提供することが、これまで以上に重要になっている。

そのような背景から、複合施設の貸室は従来の文化、学習及び交流機能を継承しつつ、機能の集約化及び多機能化により、使いやすく、運営しやすい貸室として再編する。具体的には、会議、研修、講座、ワークショップ等に対応できる汎用性の高い諸室を基本とし、利用人数や活動内容に応じて柔軟に利用できる室構成や設備（可動間仕切り、備品、情報通信技術（ＩＣＴ）環境等）を検討する。また、利用者のプライバシーに配慮が必要な活動や音の発生を伴う活動についても適切に対応できるよう、用途に応じたゾーニング、遮音及び音環境への配慮を行う。

さらに、音楽ホール、図書館、博物館、共用部等と複合化することで、学び、創作、鑑賞及び交流が相互に連携し、市民活動の広がりや再訪の動機につな

がる施設運用を目指す。貸室利用者が配架されている図書、博物館の展示、市民活動の展示等に触れることにより、多世代の交流や地域活動の活性化を促し、市民の文化、学習及び交流の基盤強化に寄与することを目指す。

(イ) 貸室機能の想定規模

主な整備諸室	整備想定面積 (㎡)	※参考 既存施設の面積 (㎡)
(中央公民館機能)		
第 1 研 修 室	5 0	5 3
第 2 研 修 室	5 0	5 3
第 3 研 修 室	8 0	8 1
第 4 研 修 室	1 0 0	1 0 2
第 5 研 修 室	8 0	8 1
第 6 研 修 室	1 0 0	1 0 2
第 7 研 修 室	5 0	4 8
第 8 研 修 室	5 0	4 8
第 9 研 修 室	7 0	6 8
調 理 室	1 3 0	1 3 0
美 術 工 芸 室	6 0	6 1
視 聴 覚 室	1 3 0	1 2 8
和 室	4 5	4 6
茶 室	1 0	9
講 座 室	4 0	3 8
(ふたかみ文化センター貸室機能)		
第 1 会 議 室	7 0	7 1
第 2 会 議 室	6 0	6 4
第 3 会 議 室	7 0	6 7

第 4 会 議 室	8 0	7 7
和 室 第 1	3 0	3 3
和 室 第 2	3 5	3 3
市 民 ギ ャ ラ リ ー	1 1 0 (博物館と共用)	1 1 9
計	1, 5 0 0	1, 5 1 2

(注：今後の設計業務等において、変更となる可能性がある。)

(ウ) 貸室機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 少子高齢化、生活様式の多様化等の社会環境の変化に対応するため、市民の文化活動、学習活動及び地域交流の受け皿となる貸室機能を再編し、強化することで、持続可能な公共施設サービスの実現を図る。
- II 市民の学びと活動を支援する拠点として、会議、研修、講座、ワークショップ等に対応できる汎用性の高い貸室を整備し、活動内容に応じて可動間仕切り、プロジェクター等の必要な設備を備えることで、多様な市民活動を支援する。
- III 利用者の多様な使い方に対応できるように少人数で利用しやすい小部屋や、多人数での利用が可能な広さの部屋を備えた室構成を検討するとともに、利用者のプライバシーに配慮が必要な活動にも適切に対応できる室配置を検討する。
- IV 音の発生を伴う活動（音楽練習、演劇稽古等）に対応するため、防音性能を備えた貸室（スタジオ等）を必要に応じて整備し、他の諸室や共用部への影響を抑えながら、多目的な利用が可能となる環境を確保する。
- V 畳敷きの和室を設け、茶道、華道、着付け等の伝統文化活動に活用できるスペースとする。
- VI 料理講座等を開催することができるスペースとして、調理実習室を設ける。

Ⅶ 貸室は、音楽ホール、図書館及び博物館との複合化のメリットを生かし、活動成果の展示やミニ発表等の場となるとともに、関連する情報に触れる機会を創出することで、利用者同士の交流や多世代の参加を促進させる。貸室のみで活動が完結するのではなく、各機能と連携した配置とすることで、貸室利用者以外の来館者にも活動の様子が見え、内容が伝わる環境を整える。これにより、市民の文化、学習及び交流活動の裾野拡大につなげる。

整備イメージ

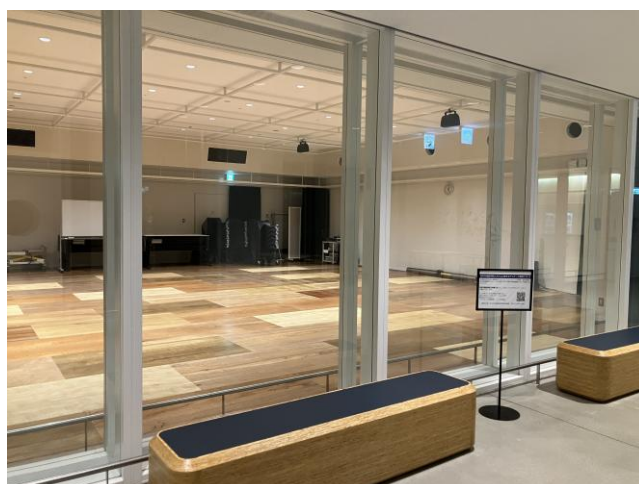


図４－３ 貸室機能の整備イメージ

(茨木市文化・子育て複合施設 おにクル（大阪府茨木市）)

(エ) 参考（既存施設の概要）

名 称	香芝市中央公民館
所 在 地	香芝市下田西三丁目 7 番 5 号
開 設 年 月	昭和 5 5 （ 1 9 8 0 ） 年 4 月
経 過 年 数	4 6 年
構 造	鉄筋コンクリート造 地上 3 階建て
延 床 面 積	2, 6 3 4 m ²
利 用 時 間	午前 9 時 0 0 分から午後 9 時 0 0 分まで

休 館 日	毎月第1木曜日、12月28日から翌年1月4日まで
-------	--------------------------

※ 香芝市ふたかみ文化センターについては、「イ 図書館機能」に記載

エ 多目的スペース機能

(ア) 導入機能の考え方

複合施設（音楽ホール、図書館、博物館、貸室等）が整備されることで、様々な人々が出会い、つながり、交流が生まれることが期待されるが、その効果をさらに増幅させることを目的に、「大人数、多用途に対応できる場」として多目的スペースを整備する。多目的スペースは、講演会、説明会、ワークショップ、展示、成果発表、練習、イベント等に柔軟に対応できるよう、平土間を基本とし、必要に応じてレイアウト変更が可能な空間とする。また、日常的に利用される居場所となるよう、自習スペースや会議室としても活用できるよう整備し、施設内で行われる活動や交流によるにぎわいが周辺に自然に伝わる空間構成を検討する。

基本構想においては、災害発生時等の緊急時に災害対策本部としての利用を想定していたが、その場合、他の公共施設より耐震性能に余裕を持たせる必要があり、建設費も増大することから、本計画では災害対策本部機能は設けないものとする。

また、図書館機能と同様に、スクリーンや映像機器等を適切に整備し、講演会や研修、各種イベントなど様々な利用に対応できる環境を整える。

(イ) 導入機能の規模

多目的スペースの整備想定規模は、約500㎡とする。なお、多目的スペースの規模については、今後の設計業務等において変更となる可能性がある。

(ウ) 多目的スペース機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 展示利用等も想定し、博物館や共用部との連携を検討する。
- II 可動什器、展示パネル、イベント用の備品等を活用し、企画展示、市民活動の成果発表、ワークショップ、説明会等、用途に応じて部屋を柔軟に切り替えられるように検討する。

オ 博物館機能

(ア) 導入機能の考え方

香芝市二上山博物館は、本市の歴史、文化、自然等に関する資料の収集及び保管を行うとともに、展示、学習機会の提供及び情報発信を通じて、市民が地域の魅力に触れ、理解を深める拠点としての役割を担ってきた。

一方で、資料の増加に伴う収蔵スペースの確保、展示及び学習機会の更なる充実、来館者が日常的に立ち寄りやすい仕組みづくり等、運営面や機能面での課題が生じている。

このため、複合施設における博物館機能は、二上山博物館が担ってきた役割を継承しつつ、複合施設としての機能の連携を生かし、地域の歴史文化の保存、継承と学びの充実を図るものとして再編する。具体的には、常設展示及び企画展示等により市民が地域の歴史文化に触れ、学ぶことで、誇りや愛着を育むきっかけとなる展示機能を確保する。さらに、資料の収蔵、整理、管理、調査研究、教育普及等を一体として捉え、収蔵だけにとどまらないバックヤード機能を含めて整備する。

また、図書館機能や共用部との連携により、関連図書の展開、共用部での展示、情報発信、イベント等を行うことで、日常的な利用の中で自然に学びへとつながる仕組みを構築する。これにより、来館者の再訪意欲を高め、学びと交流を促進する博物館機能を目指す。

(イ) 導入機能の規模

香芝市二上山博物館は、本市の歴史、文化等の情報発信と学習機会の提供を担ってきた。一方、資料の増加に伴う収蔵スペースの確保が継続的な課題となっている。

複合施設における博物館機能は、香芝市二上山博物館が担ってきた展示、収蔵、資料整理等の機能を基本的に継承し、再編することを前提とする。単に展示スペースを整備するのではなく、資料の適切な保管と整理を調査研究や教育普及に展開するバックヤード機能を含めた博物館機能として成立させる。

博物館機能の規模は、現行の香芝市二上山博物館の規模を踏まえ、収蔵庫は現状以上の規模を確保するとともに、展示スペースも同規模程度を確保するよう整備する。

収蔵庫については、現状の収蔵スペースのひっ迫を踏まえ、将来的な資料の増加も見据えた面積と保管環境（温湿度、セキュリティ等）を確保することを基本とし、基本計画において必要面積、諸室構成を整理した上で、今後の設計段階で精査する。

(ウ) 博物館機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 子どもから高齢者まで、誰もが立ち寄りやすく利用しやすい博物館を目指し、図書館、共用部、貸室等の他機能と統一感のある空間とする。特に図書館との連携においては、展示テーマに関連した図書の展開や学習コンテンツの相互利用等により、展示で生まれた興味を「調べる、学ぶ」行動へつなげることで、学びの循環を促進する。
- II 常設展示と企画展示を核とし、展示室だけで完結しないよう、共用部における小展示、ミュージアムショップ、情報発信（関連資料の紹介、デジタルサイネージ等）及びイベント等を通じて、施設全体に博物館機能が「にじみ出す」構成を検討する。
- III 多様な来館者が利用することを想定し、分かりやすい動線と適切な滞留空間（待合、休憩、観覧前後のたまり等）を確保する。展示は、子どもや初めての来館者にも理解しやすい導入展示を設けるなど、学びの段階に応じた構成を検討する。
- IV 体験、学習機会の充実を図るため、学習プログラムやワークショップ等に対応できるスペースの確保を貸室と併せて検討する。また、学校利用や親子利用にも配慮し、貸室と連携した見学や学習（ワークショップ）のしやすさ（室面積、動線）を整理する。
- V 資料の収蔵、整理、管理等のバックヤード機能については、来館者の動線と明確に分離しつつ、効率的な搬入出及び作業が行える計画とする。
- VI 展示解説の多言語化、音声ガイド、資料情報の検索、関連する情報への誘導等にデジタル技術を活用し、多様な来館者が展示内容を理解しやすい環境を整備する。



図 4－4 博物館機能の整備イメージ
(香芝市二上山博物館)

カ キッズルーム機能

(ア) 導入機能の考え方

子どもと保護者が安心して過ごせる「居場所」として、天候に左右されず日常的に利用できるキッズルームを整備する。

乳幼児から小学校低学年までの利用を想定し、お遊戯、交流、休憩が無理なく共存できる空間とするとともに、子育て世代が気軽に集い、子どもの成長を見守りながら過ごせる場となることを目指す。

図書館の児童コーナー等と連携し、子どもの興味と関心を、読み聞かせ等の活動や、「本に触れる、調べる、学ぶ」体験につなげるため、施設全体の動線と機能配置を工夫する。

(イ) 導入機能の規模

キッズルームの規模は、乳児向け、幼児向けのエリア分けを基本とし、利用者の滞留密度や安全確保（見守り、音及び衛生）に配慮しつつ、必要面積を整理する。

また、授乳室、おむつ替えスペース、ベビーカー置場、手洗い等の附帯機能

を一体的に確保することを前提に、基本計画において必要規模を整理し、今後の設計段階で精査する。

ピーク利用時の混雑を想定し、出入口の幅員、受付スペース、待合スペース、靴の脱ぎ履きスペース等について、必要な規模及び配置を整理する。

(ウ) キッズルーム機能の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 保護者の見守りや休憩がしやすい配置（見通し、荷物置場等）とし、長時間滞在しやすい居心地を確保する。
- II 入退室管理や運用ルール（受付、靴の扱い、飲食の可否等）を想定し、管理負担が過度に増えない計画とする。
- III 図書館の児童コーナー、読み聞かせスペースを共用部等と近接、連携させ、親子が施設内を移動しやすい動線とする。また、音の問題にも配慮し、にぎやかゾーン、静寂ゾーンといったゾーン分けを行う。
- IV クッション性のある床材や安全性に配慮した家具を備えた床座型のキッズルームを設置し、乳児向けと幼児向けでエリアを分けて年齢に応じて遊べる環境を整備する。
- V ブロックやパズルなどの創造力を育むことができる知育玩具を備え、身体を動かしながら遊べる滑り台やクッション遊具などの大型遊具を設置する。
- VI 保護者が子どもを見守りながらリラックスできるソファやベンチを設置する。
- VII 授乳室やおむつ替えスペースについては、プライバシーの保護にも配慮した清潔な環境となるように工夫する。
- VIII 怪我人の発生等に対応できるよう救急セットを備え、職員による見守り体制を整える。
- IX 不審者対策のため、職員による入退室管理を徹底する。

整備イメージ



図4-5 キッズルーム機能の整備イメージ
(丸亀市市民交流活動センター マルタス (香川県丸亀市))

キ 商業施設誘致スペース

(ア) 導入機能の考え方

飲食、物販、サービス提供等の民間事業者の出店を想定し、来館者の利便性向上と滞在価値の向上を図る。

図書館、ホール、博物館、貸室等の利用者が、日常的に「立ち寄る」「休憩する」「待つ」「交流する」場として機能するよう、公共機能を補完するサービスを導入する。例えばカフェを整備する場合、単独の店舗として完結させるのではなく、ブックカフェとしての活用を検討し、施設全体の一体感とにぎわいを生み出す機能とする。

(イ) 導入機能の規模

商業施設誘致スペースの規模は、基本構想に示す目安(約500㎡)を踏まえつつ、導入する業態(カフェ、飲食、物販等)と運営形態(単独出店、複数出店、期間限定出店等)に応じて、必要床面積、座席数、バックヤード面積等の成立条件を整理する。

(ウ) 商業施設誘致スペースの基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

I エントランスや共用部と連続した「立ち寄りやすさ」を確保し、待合、

休憩及び滞在の受け皿となる配置を検討する。

Ⅱ 図書の閲覧、学習、ホールの開演待ち、貸室利用前後の滞在等、複数の利用シーンに自然に寄り添う居場所となるよう、席配置、見通し、照明、掲示等を検討する。

Ⅲ 図書館との連携により、カフェ内にブックコーナーを設けるなど、図書館機能が自然に「にじみ出す」仕掛けを取り入れる。

整備イメージ



図4-6 商業施設誘致スペースの整備イメージ
(大和市文化創造拠点シリウス（神奈川県大和市）)

ク 共用部

(ア) 導入機能の考え方

共用部は、ホール、博物館、貸室等をつなぐ機能として、来館者が自由に立ち寄り、憩い、交流し、移動できる図書空間として整備する。

図書館機能については、本計画で複合施設に整備予定の蔵書数（約30万冊）を踏まえた必要規模を確保しつつ、図書館の専用部だけで完結させるのではなく、共用部も図書館として積極的に活用することを前提に計画する。共用部に閲覧、学習、展示等と親和性の高い「図書のにじみ出し」を組み込み、施設全体が本に囲まれ、一体感が感じられる空間を目指す。また、市民活動の展示や発信（作品紹介、地域情報、デジタルサイネージ等）を取り込み、

日常の滞在と催事利用の双方で、施設全体の魅力と情報発信の機能を高める。

なお、共用部に整備する図書空間の面積は、共用部ではなく図書館機能の面積に算入する。

(イ) 導入機能の規模

共用部の規模は、各機能をつなぐ動線の核として必要な幅員とスペースを確保することに加え、図書館機能の一部（閲覧、学習、関連展示、書架等）を共用部に分散配置する前提で、必要面積を整理する。

(ウ) 共用部の基本整備方針と整備イメージ

基本整備方針

- I 図書館としての利用を共用部へ広げるに当たり、静けさが求められるエリアと、にぎわいが生まれるエリアを適切に区分し、サイン計画やゾーニングにより利用者が迷わない構成とする。
- II 共用部は通過するだけの通路ではなく、座って読める、学べる、待てる、滞在の場として、閲覧席、ラウンジ、自習席等の配置を検討する。
- III 休憩スペースを設け、利用者が快適に過ごせる環境を確保するとともに、児童や生徒を始めとした市民等の作品及び活動を紹介する展示スペースを設置する。
- IV 市の歴史、文化、自然等に関するパネルを設置するなど、博物館の展示スペースとの関連を意識して地域の魅力を発信できる空間を整備する。
- V 市の情報発信に活用するため、デジタルサイネージを設置する。

整備イメージ



図4-7 共用部の整備イメージ

(丸亀市市民交流活動センター マルタス (香川県丸亀市))

ケ 駐車場機能

(ア) 導入機能の考え方

複合施設は香芝市役所、香芝市総合体育館に隣接し、公共施設が集積することから、来訪者用駐車場の確保が必要である。このため、駐車場の整備候補地は、利便性と敷地規模を踏まえ、香芝市中央公民館の敷地内及び旧香芝市モナミホール跡地とする。また、当該敷地には公民館機能が存続しているため、整備に当たってはその影響を考慮し、段階的整備について検討を行う。

一方で、複合施設の整備に伴い市役所南側駐車場が使用できなくなることから、代替機能の確保が必要となる。そこで、市役所北側に用地を確保した上で、来庁者及び公用車用駐車場を先行して整備する。なお、将来において香芝市役所本庁舎を建て替える際に有効な候補地となり得ることから、平面駐車場として整備することとする。これらの駐車場の整備に要する工事費は、複合施設本体の工事費とは別に整理する。

また、周辺の交通状況や公共交通機関の状況、コミュニティバスの充実等による駐車台数の変化については、今後の設計段階で精査する。

(イ) 導入機能の規模

立体駐車場の規模は、法的基準及び利用実態を踏まえて設定する。まず、香芝市開発指導基準において、店舗及び事務所等の建築を目的とする開発者に

対し、建築延床面積 50 m²ごとに 1 台以上の割合で駐車施設を設置すべき旨を規定していることに鑑みると、複合施設の延床面積の合計として約 14,500 m²を予定していることから、少なくとも 290 台の駐車台数を確保する必要がある。また、総合体育館は休日のイベント時に満車となる状況が確認されており、追加需要が見込まれることや、複合施設との同時利用を想定すると、駐車需要は一層増加する。以上を踏まえ、最大約 600 台規模の駐車場需要を想定し、必要台数を今後の設計段階で精査する。

基本計画における立体駐車場整備イメージは図 4-10 のとおりであるが、イベント終了後の混雑緩和を図るため、立体駐車場出入口の複数確保、接道する市道 9-187 号線の部分的な拡幅、敷地内での動線経路の確保等について、今後の設計段階において検討する。

また、市役所北側の来庁者及び公用車駐車場は、平面整備とするため現状の来庁者及び公用車の駐車台数を十分に満たせない可能性があるため、駐車場の全体計画について、今後の設計段階において改めて検討する。

(ウ) 整備の工程

駐車場整備の工程は後記(7)のとおりである。立体駐車場の整備に先立ち、市役所北側の私有地を取得し、来庁者及び公用車駐車場を整備する。

コ 整備予定地の範囲

香芝市役所の敷地については、複合化の対象施設である旧香芝市モナミホール、香芝市中央公民館及び香芝市ふたかみ文化センターの現在の立地場所と近く、敷地の隣地には香芝市総合体育館も立地している。また、将来における香芝市役所本庁舎の建て替えを見据えても、公共施設を集中して立地できるような環境を整えることが望ましく、公共施設が集中して立地する現在の状況を維持することで、人々のにぎわいの拠点が継続することが期待できる。また、香芝市役所の敷地は、国道 165 号、市道 9-181 号線及び市道 9-187 号線と接道しており、道路交通環境にも優れている。

このようなことから、具体的な複合施設の整備予定地としては、現状は香芝市役所南側の駐車場である部分を中心にしつつ、会議室棟及びその西側の部分も含めた区域とし、旧香芝市モナミホール及び香芝市中央公民館の部分には、来場者が利用することのできる立体駐車場を配置する。このようにすることで、複合施設が香芝市役所と香芝市総合体育館との間に立地することとなり、相互の関連性等を踏まえた事業の効率性を確保することが期待できる。



図4-8 整備予定地の範囲



図4-9 市役所北側平面駐車場整備イメージ図



図４－１０ 中央公民館側立体駐車場整備イメージ図

サ その他

多くの人々が利用する公共施設として、ユニバーサルデザイン及びバリアフリーに配慮する。また、移動がしやすく、分かりやすい動線とする。

(3) 複合施設整備イメージ

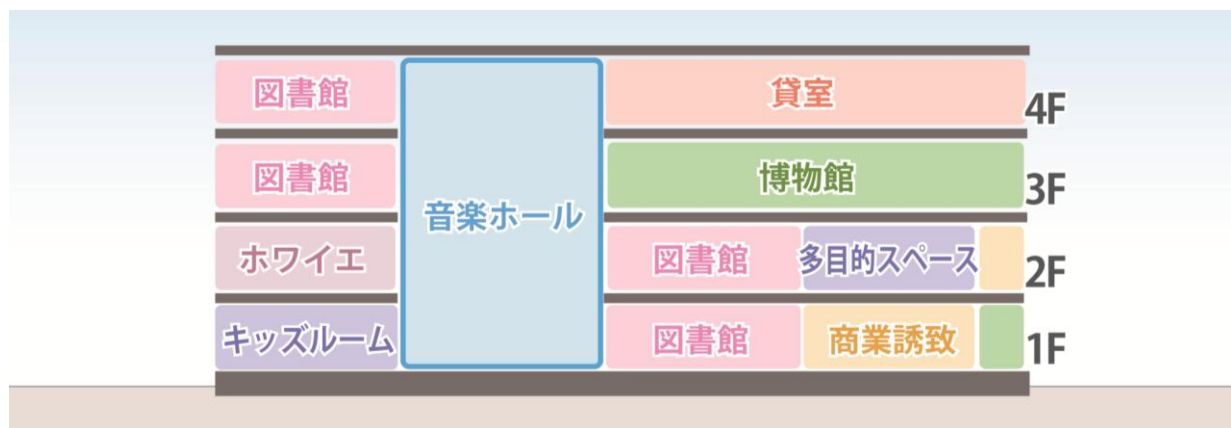


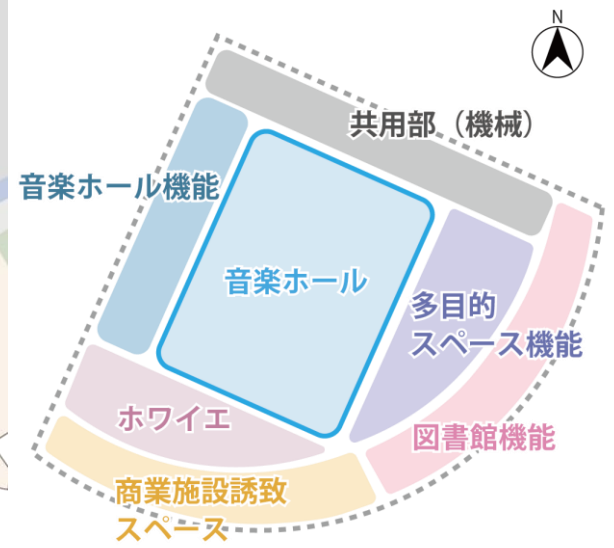
図 4-1-1 複合施設整備断面構成イメージ図



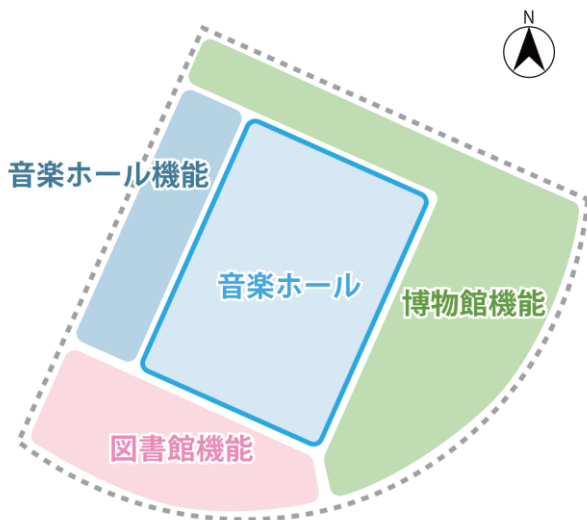
図 4-1-2 複合施設整備イメージパース



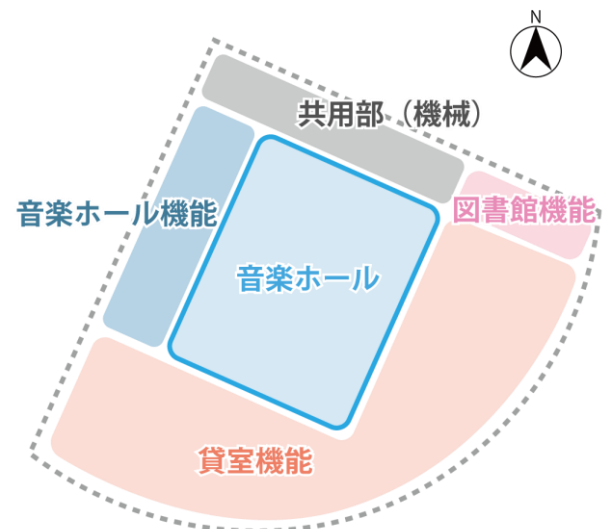
1 階平面イメージ



2 階平面イメージ



3 階平面イメージ



4 階平面イメージ

図 4-13 複合施設整備平面イメージ

(4) ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の検討

本施設では、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の考え方を踏まえ、外皮性能の向上や高効率設備の採用、運用改善等による一次エネルギー消費量の削減を基本方針とする。その上で、ZEB Oriented、ZEB Ready、Nearly ZEB等複数の達成水準を比較し、省エネルギー性能と創エネルギー導入の組合せについて検討を行う。

一方、ZEB化の推進に当たっては、初期コストの増加や事業全体への影響が想定されるため、費用対効果やライフサイクルコストを踏まえた検討が重要となる。今後、設計の進捗に応じて事業性との整合を図りながら、具体的な方針を定めていく。

(5) 概算工事費の検討

現時点での複合施設建設に係る概算工事費は、以下のとおりである。

基本構想の段階では、単位面積当たりの工事費を55万円／㎡ないし80万円／㎡程度と見込み、延床面積約14,500㎡との想定から、概算工事費は80億円ないし110億円程度と想定していた。しかし、昨今の建設費の高騰の影響や単位面積当たりの工事費が高いホール機能の延床面積拡充により、令和7年10月時点の単価で算定すると、概算工事費は約160億円に上る見込みであることが判明している。そのため、今後、基本設計や実施設計の過程で、仕様、工程等を精査し、概算工事費の適正化を図る。

また、公共施設等適正管理推進事業債（集約化、複合化事業）の活用や、部分的な地方債の活用等を検討し、市の実質負担の軽減に努める。補助制度や起債制度には期限や要件があるため、都市計画上の手続とも整合させた推進体制を整える。

費用項目	基本計画での想定	基本構想での想定
複合施設建設に係る 概算工事費	約160億円	80億円ないし110億円程度

なお、整備に係る資金、財源については、香芝市公共施設整備基金のほか、国の補助金及び地方債の活用を検討している。

(6) 事業手法及び運営方式の検討

ア 事業手法の種類

本計画で想定される事業手法を整理し、意思決定に向けた比較表を提示する。

(ア) 従来方式：設計、施工分離

「設計は設計者、工事は施工会社」と分けるやり方

【良い点】設計内容が見えやすく、公平感がある。

【注意点】設計と工事の受渡しで手戻りが出ると、時間や費用が増えやすい。

(イ) DB（デザイン・ビルド）：設計、施工一括

「設計＋工事をまとめて1社（又は1グループ）に任せる」方法

【良い点】工期短縮やコスト調整（工夫、代替案）が進めやすい。

【注意点】設計の中身をどうチェックするか（発注者の確認方法）が重要

(ウ) DB＋ECI（アーリー・コントラクター・インボルブメント）：施工者の早期関与

「設計段階から施工者の技術力とノウハウを投入する」方法

【良い点】工期短縮、コスト抑制につながりやすい。

【注意点】公平な競争（どの会社をどう選ぶか）の設計がポイント

(エ) CM（コンストラクション・マネジメント）：発注者支援

「発注者の代わりとなる工事の調整役を置く」方法

【良い点】コスト、品質、工程を見張りやすい。

【注意点】調整や意思決定の回数が増え、体制づくりが必要

(オ) PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）：官民連携

「建てるだけでなく、運営や維持管理までまとめて民間に任せる」方法

【良い点】長い目で見た維持費（LCC）を下げやすい可能性がある。

【注意点】契約が複雑で準備に時間がかかり、モニタリングも難しい。

イ 各事業手法の比較表（5段階：◎＞○＞△＞▲＞×）

手法	コスト 確実性	工期	品質 性能担保	柔軟性	調達 難易度	公共性 透明性
①従来方式 （設計、施工分離）	△	▲	○	○	○	◎
②DB （設計、施工一括）	○	○	○	△	○	○
③DB＋ECI （施工者の早期関与）	◎	◎	○	△	▲	○
④CM （発注者支援）	○	△	◎	○	▲	◎
⑤PFI （官民連携）	◎	△	○	▲	▲	○

ウ 事業手法の検討結果

各事業手法にはそれぞれ利点と留意点があり、事業の特性や求められる条件に応じて適切な方式を選択する必要がある。本施設整備においては、工期、コスト、品質確保、運営手法等、複数の観点を踏まえた総合的な検討が必要である。そのため、今後の設計段階において、事業条件や整備内容の具体化を踏まえ、最適な事業手法を決定する。

エ 運営方式の種類

本計画で想定される運営方式を整理し、意思決定に向けた比較表を提示する。

(ア) 直営（市が運営）

市（職員）が中心になって運営する方法

【良い点】市の方針を反映しやすい。公共性を守りやすい。

【注意点】人員確保や専門性の確保が課題になりやすい。

(イ) 指定管理者制度（民間、団体に運営を任せる）

市が選んだ事業者（企業、NPO等）に、運営をまとめて任せる方法

【良い点】民間のノウハウでサービス改善や効率化が期待できる。

【注意点】運営に対する市のチェックが重要

(ウ) 包括業務委託（業務をまとめて委託）

市が主体のまま、受付、清掃、設備保守等の仕事をまとめて外部に頼む方法

【良い点】必要な業務だけ頼めて、柔軟に設計しやすい。

【注意点】業務の切り分けが難しいと、責任があいまいになりやすい。

(エ) PFI等に付随する運営（SPC等）

「建てる＋運営」をセットにしてSPC（特別目的会社）が長期間まとめて担う方法

【良い点】長期の維持管理まで含めて、計画的に運営しやすい。

【注意点】契約が複雑で途中で見直しにくいので最初の条件づくりが重要

(オ) 民設民営（テナント運営：カフェ、売店等）

カフェやショップ等の収益が出る部分は民間が自分の責任で運営する方法

【良い点】サービスの工夫が出やすく、市の負担も軽くなりやすい。

【注意点】公共施設としてのルール（価格、コンセプト）を条件で担保する必要がある。

(カ) コンセッション（運営権方式、部分適用含む）

「運営する権利を民間に渡し、利用料収入等で運営してもらう」方法

【良い点】集客やサービス改善の工夫が出やすい。

【注意点】利用料等の稼ぐ力が弱い施設では成立しにくい。

オ 各運営方式の比較表（５段階：◎＞○＞△＞▲＞×）

用途	①直営	②指定管理者制度	③包括業務委託	④P F I	⑤民設民営	⑥コンセッション
音楽ホール	△	◎	○	○	×	△
図書館	○	◎	○	△	×	×
博物館	○	○	○	△	×	×
貸室	△	◎	○	×	×	×
多目的スペース	△	◎	○	×	×	×
キッズルーム	△	○	○	×	×	×
商業施設誘致スペース	×	○	○	×	◎	×
駐車場 (別途検討枠)	△	○	○	△	×	○

カ 運営方式の検討結果

本施設は公共性の高い機能を多く含むことから、市が主体となる①直営を基本としつつ、各機能の特性や専門性に応じて、②指定管理者制度や⑤民設民営の活用を検討する方式が適切であると整理した。

音楽ホールや貸室等については②指定管理者制度の活用を視野に入れ、商業施設誘致スペースについては⑤民設民営を基本とする等、用途ごとに最適な運営方式を選択することを検討していく。

機能ごとに運営方式を検討することで、市の方針や公共性を確保しながら、民間ノウハウを活用した効率的で柔軟な施設運営を目指す。

(7) 今後のスケジュール

基本計画においては、想定される今後の事業内容及びスケジュールについて整理している。ただし、採用する事業手法によっては、事業内容やスケジュールが変動する可能性がある。

なお、複合施設の建設に当たっては、設計とは別に用地取得が必要である。また、香芝市総合体育館南側の立体駐車場及び香芝市役所北側の来庁者及び公用車駐車場については、複合施設建設より先行して整備する必要がある。

事業の着手時期については、物価高騰が続く昨今の状況においては、国や奈良

県による更なる財政的支援がなければ、複合施設建設を実施することは容易ではない。複合施設の整備については、市議会や市民からも強く求める意見が寄せられていたことから、財政的な諸課題が解決される見通しが立てば実施していくべき事業であると位置付けている。そのため、国や奈良県に対し、財政支援の枠組みの拡充を要望していきながら、事業着手の時期を見定めていく。

〈複合施設〉

年度		1 年目				2 年目				3 年目				4 年目				5 年目			
項目	月数																				
基本設計	1 2																				
実施設計	1 2																				
建設工事	2 7																				
開設準備	3																				
供用開始	一																				

〈駐車場〉

年度		1 年目				2 年目				3 年目				4 年目				5 年目			
項目	月数																				
来庁者及び公用車 駐車場	6																				
立体 駐車場	9																				

5 市民意向調査、ヒアリングについて

(1) 目的、位置付け

市民意向調査については、短期間で幅広い市民の意見を把握する必要があることから、比較的短期間で実施可能なアンケート方式を採用した。これにより、限られた期間の中でも一定数の回答を確保し、市民意見の全体的な傾向を把握することが可能となる。

一方で、計画の妥当性や実現性を高めるためには、既存施設を利用している関係団体から、運用面に関する具体的な意見を直接把握することが重要である。このため、アンケートによる広範な意見収集に加え、回答の具体性を補う手段として、アンケート回答団体の一部に対してヒアリングを実施する方針とした。

(2) 市民アンケート、ヒアリングの概要

アンケートの調査期間は、令和7年12月下旬から令和8年1月上旬までとし、対象者は、施設を利用することが見込まれる学校法人、社会福祉法人、文化活動を行う団体等とし、合計190団体を抽出した。回収数は、音楽ホールが30件、貸室・多目的室が111件であった。その中でヒアリング参加を希望した一部の団体に対して、ヒアリングを行った。

(3) 市民アンケートの分析

ア 音楽ホール機能

(ア) 回答者、団体属性の概況

学校系の利用ニーズが全体傾向を強く形作っている可能性が高い一方、一般団体、文化サークル、音楽サークル、福祉系のニーズにも考慮する必要がある。

項目	主な結果（複数回答）
団体種別	学校、PTA、子ども関連 19（最多）／音楽サークル 2／文化サークル 2／福祉、市民活動 1／事業者関連 1／ボランティア 1／その他 5
居住地	香芝市内 22／奈良県内の香芝市近郊 12
年代	10代以下が最多。40代から70代以上まで幅広く分布

(イ) 利用規模（観覧人数）

吹奏楽部等の学校関係者については、中規模～大規模（800人～1,500人）への要望が強い。一方で、文化サークルや音楽サークルについては、300人以下を中心とした中規模利用の需要も一定数存在している。

これらを踏まえ、客席を1階席と2階席に分けるなど、利用規模に応じて柔軟な運用を可能とすることで、幅広いニーズに応えられると考えられる。

利用規模	件数
1, 200人から1, 500人程度	8件
1, 000人から1, 200人程度	6件
800人から1, 000人程度	5件
600人から800人程度	2件
300人から600人程度	3件
300人程度	3件
その他	1件

(ウ) 所属団体の利用人数

大人数（100名超）を想定する回答が多く、舞台、バックヤード、待機場所、動線の重要度が高い。

所属団体の利用人数	件数
それ以上	12件
51人から100人まで	9件
31人から50人まで	5件
21人から30人まで	0件
11人から20人まで	3件
1人から10人まで	0件

(エ) 利用頻度

定例利用より「年次行事、発表会、イベント型」が多い傾向にある。

利用頻度	件数
6か月以上に1回程度	8件
4か月から6か月に1回程度	4件

2 か月から 3 か月に 1 回程度	3 件
1 か月に 1 回程度	0 件
1 か月に数回程度	3 件
その他	7 件

(オ) 利用時間帯

特定の曜日に偏ることなく、平日、休日ともに利用されている。

利用時間帯（複数回答）	件数
平日午前	1 2 件
平日午後	1 0 件
休日午前	1 2 件
休日午後	1 2 件

(カ) 必要な舞台設備

「反射板」は多くの団体から必要との意見があった。また、「その他必要な設備」として、ひな壇、グランドピアノ、映像投影、録音、搬入口、ユニバーサル対応等との意見があった。

舞台設備（複数回答）	件数
音響反射板	2 3 件
脇花道	1 0 件
オーケストラピット	4 件
その他必要な設備	1 8 件

(キ) その他自由記述からの意見について

i 音響品質：

残響のバランスに配慮する等、音響性能への高いこだわりが求められている。近隣他市町村ホールに相当する音響品質を期待する意見も見られた。

ii 学校行事、子どもの発表への適性：

舞台から客席に音が良好に響くことや、保護者が観覧できる客席規模の確保が求められている。また、学校での利用を想定した意見も多く、一定規模の収容能力が必要とされている。

iii 舞台、バックヤード：

ひな壇、緞帳、吊りマイク、照明設備等の基本的な舞台機能に加え、屋根付きの搬入口や広いバックヤード、楽屋、リハーサル室の充実が求められている。

iv ユニバーサル対応、福祉的配慮：

車椅子席の確保や難聴者支援、要約筆記スペースの設置、バリアフリーへの配慮に加え、子どもでも安全に利用できる環境が必要とされている。

v 運用、居場所性：

ロビーや休憩スペースの充実、トイレへの近接性、分かりやすい動線が重視されている。また、イベントがない時間帯でも日常的に立ち寄れる空間や、カフェ等の併設を期待する意見があった。

vi 都市ブランド、象徴性：

県内外からの集客が可能な施設とし、文化の象徴として香芝市のブランド力の向上につながることが期待されている。

vii 映像、音声及び配信に関する設備：

録画、録音への対応に加え、プロジェクターやスクリーンの設置、ネット配信やパブリックビューイング等への対応が求められている。

viii 利用規模：

「1,500席以上でなければプロによるコンサート等を誘致できない」といった意見も挙げられている。

イ 貸室・多目的室機能

(ア) 回答者、団体属性の概況

貸室・多目的室は、様々な団体の利用がある。居住地は市内、年代は60代以上（特に70代以上）、交通手段は車（自家用車）が多かった。

項目	主な結果（複数回答）
団体種別	文化サークル 47／音楽サークル 26／ボランティア団体 17／その他 11／福祉、市民活動 7／スポーツサークル 6／事業者及び関連団体 5／学校、PTA、子ども関連 4

居住地	香芝市内 97 / 香芝市近郊の奈良県内 41
年代	70代以上 87、60代 71 が突出して多い。
交通手段	車（自家用）100が最多。徒歩 42、自転車 45も一定数

（イ）活動人数

小規模人数から中規模人数までの活動が中心となっており、活動人数及び活動内容に応じた広さの確保が必要となってくる。

活動人数	件数
21人から30人まで	12件
11人から20人まで	41件
1人から10人まで	53件

（ウ）利用頻度

活動頻度としては、2週間から1か月に1回程度が最多となっているが、週1回程度で活動している団体も見られる。

利用頻度	件数
2か月から3か月に1回程度	4件
2週間から1か月に1回程度	54件
週1回程度	12件
週1回以上	9件
その他	27件

（エ）利用時間帯

音楽ホールのアンケートとは異なり、貸室・多目的室は「平日日中（特に午後）」の稼働が大きな軸になっている。講座、練習、集会、ボランティア活動等の「普段使い」を支える枠組みが重要になる。

利用時間帯（複数回答）	件数
平日午前	44件
平日午後	49件
休日午前	15件
休日午後	19件

(オ) 必要な部屋の大きさ

最も多くの回答が得られたのは、中くらい（約 60 m²）だが、小さめ（30 m²）や大きめ（約 100 m²）の回答も多い。これらを踏まえ、30 m²、60 m²、100 m²の部屋を複数室用意し、時間帯や用途に応じて利用できるよう検討する。

必要面積（複数回答）	件数
小さめ（約 30 m ² ）	23 件
中くらい（約 60 m ² ）	52 件
大きめ（約 100 m ² ）	20 件
さらに大きめ（約 150 m ² ）	4 件
150 m ² 以上	4 件

(カ) 必要な設備

約 60 m²の部屋での会議や講座利用が中心となることから、机、椅子、ホワイトボードについて整備されていることが前提となる。

音響及び映像設備（A V 設備）及びW i - F i 環境については、利用に当たって必要という意見が多かった。また、音を出す用途（カラオケ、合唱、太鼓等）と上映、講義用途等が混在しやすいことから、遮音性能、A V 設備、可動間仕切りの有無等について、部屋ごとに性能を分けて検討する。

必要な設備（複数回答）	件数
A V 設備	28 件
W i - F i	20 件
和室	20 件
給排水	17 件
録音、撮影しやすい環境	16 件
200 V 電源	10 件
調理設備	3 件
その他	26 件

(キ) その他自由記述からの意見について

i 料金、手続：

使用料は安価で、気軽に利用できることが求められている。また、申請手続が分かりやすいことや、使用料に空調費が含まれることを希望する意見

があった。

ii 駐車場、アクセス：

車（自家用車）での来館を前提とする意見が多く、十分な駐車場の確保が求められている。駐車場が有料の場合は、利用しづらいという意見もあった。

iii 居場所性：

ベンチ、カフェや休憩スペースなど、気軽に立ち寄れる居場所としての要素が重視されている。自然光が入り、心地よく過ごせる空間への要望もあった。

iv 防音、音環境：

防音室への需要があり、音漏れへの配慮が求められている。また、音が響きすぎて聞き取りにくいとの意見もあり、太鼓やカラオケなどの利用を想定した吸音対策が必要とされている。

v 収納：

倉庫やロッカー（鍵付き含む）などの収納スペースに加え、麻雀牌、将棋道具、工具、手芸材料等の備品を保管できる場所が求められている。

vi 活動仕様に関する具体的要望：

踊りや着付けに対応した鏡、掲示板、ピアノ、バレエバー、床材、工作机、焼結炉等、活動内容に応じた専用設備へのニーズがあった。

(4) ヒアリングの分析

ア 音楽ホール機能

(ア) 収容規模

客席数1,000席案については、市民の通常利用では規模が過大になる可能性がある一方で、吹奏楽や学校行事での利用においては客席数が不足する場合があるという意見があった。

利用者が特に課題として挙げているのは、「予約が取れないこと」「客席数の不足による2回公演の実施」「県内ホールの減少」であり、全体として供給不足に対する共通の危機感が見られた。

このため、座席数については「象徴性（公演誘致のしやすさ）」と「実需（学校行事、コンクール等）」の双方を満たしやすい1,200席から1,500

席規模に支持が集まった。

一方で、300席程度で成立する催事も一定数存在することから、客席の部分利用や上層階の閉鎖など柔軟な運用を行うことで、空席が目立つことを避けるとともに運営コストを抑えることが有効と考えられる。

項目	背景、理由
1, 500席以上	商業利用やプロオーケストラ等の公演まで視野に入れる場合においては、1, 500席以上が求められる。
1, 300席から 1, 500席まで	奈良県橿原文化会館（1, 304席）の閉館見込みを踏まえ、中南部に同等以上のホールが求められている。1, 500席は県内最大級で各種催事の誘致にも有効である。
1, 200席から 1, 500席まで	大きなホールを求める意見が一定数ある。ただし、必要面積や運営経費等の現実的制約も踏まえて検討する必要がある。
1, 200席	吹奏楽部の定期演奏会等で1, 000人規模の利用になる。座席数不足で2回公演になるのを避けるためにも1, 000人規模が必要となる。
1, 000席程度 ＋可変	小規模イベントにも対応する可変性が重要となる。

（イ）バックヤード

ヒアリングを通じて、利用者からは客席数よりも、舞台転換が円滑に行えること、楽器類を円滑に運搬できること、搬入動線が滞らないことといった、運営面や実務面の成立性を重視する意見が多く挙げられた。これらが確保されない場合、利用が敬遠され、施設の稼働率に影響を及ぼすおそれがある。

また、施設の複合化が進むほど、ホールのホワイエやエントランス、動線が他の機能と干渉せず、ホール単独で完結した運用が可能であることの価値が高まるとの指摘があった。

項目	背景、理由
楽屋、舞台裏	楽屋、搬入動線、機材置場は十分に確保することが望ましい。
楽屋（複数室、運用区分）	楽屋は男女別の運用ができること
搬入口	トラックでの搬入出が円滑にできること
搬入口（屋根）	雨天時に楽器搬入をするためには、搬入口に屋根が必要となる。

搬入口	吹奏楽で使用する楽器を搬入する場合、4 tトラック1台（又は2 tトラック2台）が入る広さが必要となる。
舞台袖、通路	舞台袖、通路は大型楽器が通れる広さが必要となる。
下手溜まり	入替え、舞台転換等のために舞台袖に十分な広さを必要とする。
リハーサル室	ホールを使用している際に、別室で準備や練習ができるためのリハーサル室があると良い。

（ウ）舞台規模

舞台仕様については、間口16m、奥行13.5m程度を目標水準として設定することで、吹奏楽、学校行事、文化団体等複数の利用者の要求を同時に満たすことができると考えられる。

項目	背景、理由
舞台規模に関する意見	60名から80名が演奏可能な間口16m×奥行13.5m程度の十分な広さを有する舞台が必要となる。
	OB／OG合同演奏会では出演者が100名弱になる。
	園児の合唱では80名、器楽合奏では子ども40名程度と楽器が舞台に乗った実績がある。吹奏楽では、50名以上70名程度となる場合がある。

（エ）舞台設備

舞台前方の可変機構（迫り、前舞台）については、オーケストラピットとしての用途よりも、演出や舞台面積の拡張に対応できる前舞台としての活用が望まれていることが分かった。

（オ）音響設備

「音響を良くする」という要望については、利用内容によって求められる性能が異なることが明らかになった。吹奏楽やコンサートなどの音楽利用では、響きの豊かさ（残響）や反射板による音の立ち上がりが重視される一方で、高齢者利用や会議・講座系の用途では、過度な反響を抑えた明瞭性の確保が重要とされている。このため、ホールについては音楽利用を主用途として位置付けた上で、反射板や可変音響装置などにより必要に応じて音響特性の幅を持たせる考え方が有効である。一方、練習室や会議室については、ホールとは異なる設計思想のもと、明瞭性と遮音性を重視した空間とし、各部屋に

応じた音環境を計画することが合理的と考えられる。

(カ) 附帯諸室

ホール本体に加えて、リハーサル室や活動室の在り方が施設全体の使われ方を左右する重要な要素であることが示された。既存の公民館においてもピアノを設置している部屋や防音性能の高い部屋の利用率が高いことから、複合施設において、リハーサル室や活動室が複数確保されていれば、舞台利用の有無にかかわらず日常的な利用が見込まれる。

また、舞台準備や転換中に別室で練習できる機能、楽器や機材の一時置場ができる場所を求める意見が多く、ホール利用と並行して使える附帯諸室の充実が求められている。

さらに、高齢者を含む幅広い利用を想定し、防音性能を備え、太鼓や歌唱などにも対応可能な練習室を複数設けることへの要望がある。加えて、託児を伴う利用を想定した会議室については、床仕上げに配慮し、机等を置かない「何もない状態」で柔軟に使える空間が望まれており、和室は障子等を子どもが壊すおそれがあるので使いにくいとの意見も見られた。

これらを踏まえると、用途や利用者層に応じた仕様を備えたリハーサル室、活動室、会議室、貸室等との連携を考慮しながら十分な室数を確保することが、施設全体の稼働率や利便性の向上につながると考えられる。

項目	背景、理由
リハーサル室、活動室（複数）	複数あれば単独でも利用が見込まれる。 舞台準備中に別室で練習できる機能が必要となる。
練習室（防音）	高齢者も安心して使える練習室が求められる。太鼓等も使用するため、防音機能が必要となる。十分な室数を確保する必要がある。
荷物置場／機材置場	活動に使用する機材を保管する荷物置場が求められる。
託児利用できる会議室	床がじゅうたん等で、机等が片付いた「何もない状態」で使いたい。

(キ) 旧施設、既存施設への意見

i 旧香芝市モナミホール

旧香芝市モナミホールに関する意見として、バックヤードの不足、動線計画の不十分さ、舞台の面積や奥行き不足、舞台袖の狭さ、屋根のない搬入口等、運用面での使いにくさ等が挙げられた。また、音響についても「響

かない印象がある」、「遮音性能が不十分」といった意見があり、控室や楽屋が狭いことも課題として挙げられた。

また、音響反射板などの個々の設備については一定の評価があったものの、バックヤードや附帯空間が不足しているため、性能を十分に活かしきれていないとの意見があった。さらに、施設全体として「公民館の延長」といった印象にとどまり、自主事業の展開や対外的なイメージ形成が弱かった結果、集客面でも苦戦してきたとの意見があった。

これらの意見から、舞台や音響単体の性能向上だけでなく、バックヤード、動線、附帯諸室を含めた総合的な計画と、施設の位置付けや発信力を意識した構成が重要であると考えられる。

ii 香芝市ふたかみ文化センター

意見としては、舞台袖が十分に確保されておらず、舞台転換が成立しないといった運営面での課題が挙げられた。また、ホールについては、客席の段差が急で、高齢者にとって安全性に不安があるとの意見も見られた。

これらの指摘から、舞台周りの余裕や転換動線の確保に加え、客席計画においても高齢者利用を含めた安全性、利用しやすさへの配慮が重要であることが示唆される。

iii 近隣他市町村のホール

近隣他市町村のホールに関する意見としては、利用者が使いやすいホールではあるが、予約が取りにくく、特定時期に需要が集中していること自体が大きな課題として挙げられた。特に学校利用においては、ホールを確保できないことが活動計画そのものに影響しており、「予約を取りにくい」状況が恒常的な課題として認識されている。一方で、舞台規模や使い勝手については「ちょうど良い」と評価する意見もあり、施設の基本性能そのものよりも、施設の予約が取りにくいことが問題の本質であることがうかがえる。

このことから、施設計画においては、舞台性能を一定水準で確保することに加え、安定して利用機会を提供できる申込み方法を始めとする運営体制の確保が重要であると考えられる。

項目	背景、理由
旧 香 芝 市 モ ナ ミ ホール	バックヤードが不足／動線が悪い／舞台が小さい、奥行が不足／舞台袖が狭い／屋根が無い搬入

	口／遮音性能が不足／控室が狭い 等 音響は良かったが、バックヤードが不足していて ホールとしての性能を活かせていなかった。
香芝市ふたかみ文化センター	舞台袖が狭く転換が成立しない／ホールの段差が 急で危険
近 隣 他 市 町 村 の ホール	予約が取れない／舞台は一定の評価ができる

(ク) まとめ

i ホールの主用途

ホールの用途として、講演、音楽（吹奏楽、合唱、オーケストラ）、演劇等が考えられるが、どの用途を主用途とするのかを検討する必要がある。

利用者からは、「中途半端な性能にならないよう、主用途を明確にしてほしい」という意見が多く寄せられた。

ii 客席数

客席数については、1, 200席から1, 500席規模を支持する意見が多くある。

一方で、300席程度で成立する催事も一定数存在することから、客席の部分利用や上層階の閉鎖など柔軟な運用を行うことで、空席が目立つことを避けるとともに運営コストを抑えることが有効と考えられる。

iii バックヤード

4 tトラックでの搬入や屋根付き搬入口、十分な楽屋、荷捌きスペース、機材置場、舞台袖や通路の広さ、転換時のスペース等が必要とされている。複合施設であっても、ホール単独で無理なく運営できるエントランスやホワイエ計画が重要である。

iv リハーサル室、活動室

用途や利用者層に応じた仕様を備えたリハーサル室、活動室を整備することで、日常的な利用や、ホール使用時の練習用としての利用が見込まれる。

v 音響設備

ホール、リハーサル室、会議室など、部屋によって求められる音響や遮音性が異なるので、各部屋に応じた音環境を計画することが必要となる。

vi 子どもと高齢者それぞれへの安全配慮

子どもの利用では動線の分かりやすさや安全性の重視が必要とされている。高齢者の利用では、バリアフリーや段差の安全性等が重要とされており、同じ「安全」でも異なる視点で設計に反映する必要がある。

vii 運用制度

減免制度や地域団体が使いやすい料金、夜間利用の料金、開館時間等の運営面の条件を整理していく必要がある。

イ 貸室・多目的室機能

(ア) 団体ごとのニーズ

A) 会議、学習、講座系

現在は、年間利用枠や登録団体優先といった制度の影響で、複数の部屋を組み合わせる使うことが難しい状況が生じている。そのため、複合施設では、単に部屋数を増やすだけでなく、1つの部屋を分割できるような可変性が必要である。

B) 作業系（制作、加工、整理）

貸室・多目的室は、会議室としての用途にとどまらず、工芸などの作業にも対応できることが求められる。そのため、道具や材料の保管のしやすさ、汚れへの配慮、採光、荷物の搬入出のしやすさといった条件が重要である。

C) 地域交流、居場所系（高齢者、子育て、多世代）

貸室、多目的室には、部屋の広さだけでなく、料金や活動に必要な物品の保管のしやすさ、安全性、アクセスの良さ等、日常的に無理なく使い続けられる条件が求められる。

項目	求められる機能等
A) 会議、学習、講座系	遮音性の確保、部屋の分割、複数室の同時確保（調理室＋研修室等）の仕組み等が求められる。
B) 作業系 (制作、加工、整理)	道具や材料の保管、汚れへの配慮、作業に伴う騒音への対策が求められる。照度の確保、水道、換気設備等が必要となる。また、台車による搬送や、エレベーターからの動線も検討が必要となる。

C) 地域交流、居場所系 (高齢者、子育て、多 世代)	貸室の使用料を安価にすることや、活動に使用する 物品の保管場所の確保が求められる。
-----------------------------------	--

(イ) 団体共通の要望

ヒアリングを実施した団体に共通する要望として、貸室・多目的室は、部屋そのものに加えて、共用の収納や、台車で移動しやすい動線の確保があった。特に、収納がない場合、利用者は活動に必要な物品を毎回運ぶ必要があるため、継続的な利用が難しくなるとの意見があった。

(ウ) 音に対する配慮

「静かな利用（図書館、学習、読み聞かせ）」と「音の出る利用（作業、太鼓、集会）」については、部屋ごとの遮音だけで対応するのではなく、距離の取り方や上下配置、緩衝空間を含めたゾーニングで解決すべき、という要望があった。

(エ) 予約制度、運用

施設の規模だけでなく、貸室の予約方法や、団体活動で必要となる複数の部屋を同時に確保できる仕組みが重要である。すべての貸室を専用室とすることは難しいため、複合施設の利点を生かして、楽屋を会議室として利用できる仕組みを作るなど工夫が必要である。

(オ) まとめ

i 用具や資材の収納

活動に必要な物品や資材を収納する場所について、検討する必要がある。

ii 振動を伴う活動

太鼓等の振動を伴う活動については、静かな利用が想定される諸室との距離を確保するなど、配置やゾーニングに配慮して計画する。

iii 貸室の柔軟な運用

団体活動で必要となる複数の部屋を同時に確保できる仕組みや、ホールを使用しない時に楽屋を会議室として利用できる仕組みなど、柔軟な運用が求められる。

ウ 図書館機能（運営側）

（ア）バックヤードについて

ふたかみ文化センターでは、図書館と博物館が搬入口を共有しているが、搬入が重なることは少ないため、複合施設でも共用のままで構わないという意見があった。搬入頻度としては、週1回の搬入で、2 tトラック1台程度と考えられる。4 tトラックでの搬入は基本的には想定されていない。

（イ）諸室について

ヒアリングを通じて、市民図書館に関係するボランティアグループが使用する作業スペースやロッカースペースが不足していることが明らかになった。このため、ボランティアの作業の円滑化を図り、サービスの質を高めていく観点から、管理諸室の在り方について再検討が必要と考えられる。

また、読み聞かせスペースについては、現状では閉鎖的であったり、日常空間から切り替わる「別世界感」が十分でないとの指摘があった。このため、複合施設では、オープンで、思わず入ってみたいくなる空間とする工夫が求められる。

（ウ）音に対する配慮

静かに集中して読書や学習ができる場所が求められる一方で、親子や子どもが入りたくなるようなにぎわいのあるエリアも必要との意見があった。そのため、用途に応じて空間を分けるなど、ゾーニングを工夫した計画が必要である。

（エ）飲食エリア

複合施設には、小規模な飲食コーナーを設けたいという要望が挙げられている。

（オ）ＩＣ化※、ＢＤＳ（盗難防止システム）※

図書館職員から、運営面ではＩＣ化を進め、図書管理の効率化を図りたいという意向が示されている。このため計画に当たっては、書架配置やゲート位置、持ち出し境界の設定等について、ＢＤＳ導入を前提とした合理的な動線計画とすることが重要であると考えられる。

※ ＩＣ化とは…ＩＣタグ等を活用し、資料や利用者情報を非接触で管理する仕組みへ移行すること。図書館では、蔵書管理や貸出及び返却処理の効率化、サービスの高度化を目的として導入される。

※ B D S（盗難防止システム）とは…貸出未処理資料の持ち出しを検知する図書館用セキュリティ設備。I C タグ等と連動し運用される。

（カ）博物館との連携

博物館展示空間に書籍を配架する方法は管理上の負担が大きくなるため、博物館に隣接する位置に「地域資料コーナー」を共同で設ける構成の方が、管理面や運営面から見ても実現性が高いという意見があった。また、博物館機能と図書館機能の連携については「展示」の拡張として捉えるのではなく、「調べる、学ぶ、地域を知る」という行為の連続性をつくることにより、両機能の相乗効果が生まれると考えている。

エ 博物館機能（運営側）

（ア）バックヤードについて

i 収蔵及び作業室

収蔵及び作業室については、基本的に資料は廃棄できないという性質上、保管資料が年々増加していく状況にあるため、スペースがひっ迫している。

一方で、ガラス越しに収蔵資料を見せるなどの「収蔵展示」は有効な手法であるとの意見があった。計画において特に重要なのは、博物館における本質的な面積不足が、展示空間ではなく、収蔵、整理及び作業といったバックヤード機能にある点である。収蔵展示は、こうした収蔵場所を単なる裏方空間として扱うのではなく、その存在自体を価値として可視化できる点に意義がある。また、来館者に博物館の「裏側の活動」を伝えることで、施設全体の魅力向上にもつながる。

その一方で、収蔵展示の導入に当たっては、セキュリティ、温湿度管理、照明条件等、求められる性能や管理条件が増える点にも十分に留意しなければならない。また、作業室についてもすべてガラス張りの部屋にすると運用が難しくなるため、見せる作業と見せない作業の区分けが重要となる。

また、新築後、建材等から発生するホルムアルデヒドや揮発性有機化合物等のガスの影響により、収蔵庫が一定期間使用できない可能性がある。ガスの濃度を下げるための換気期間（以下「枯らし」という。）が必要となる場合には、工程や移転計画への影響を考慮する必要がある。展示は石資料が中心で影響が小さい一方、収蔵品については直ちに移設できない可能性がある。

この「枯らし」の問題は、移転計画、仮保管、全体工程に関わる重要なリスクであり、設計の段階から織り込む必要がある。あらかじめ「収蔵品移転

の難易度」、「仮収蔵の要否」、「想定される枯らし期間」を発注条件として整理しておくことで、後の工程における計画変更や遅延のリスクを抑えることができる。

ii 搬入口

博物館の職員からも、図書館運営側の意見と同様に、博物館と図書館の搬入が重なることは少ないため、共用としても良いとの意見があった。ただし、図書館と博物館の館内での搬入ルートは分けたいという意見もあった。搬入サイズとしては、大型物品で4 tトラック1台が想定される。

(イ) 諸室について

現在の香芝市二上山博物館の展示構成から大きく変更する場合には、2年から3年単位の議論が必要となることが想定される。そのため、現行の展示構成を常設展として維持しつつ、新たな出土資料等を企画展として柔軟に紹介できるスペースを求める意見があった。計画においては、「常設展示を変更する」ことよりも、「企画や更新が可能な余白をハードとして確保する」ことが、より実現性が高いと考えられる。

また、企画展のスペースについては、一般的な貸室として位置付けられると本来の目的での活用が困難になるといった懸念が職員からもボランティアからも示されている。このため、企画展としての利用を優先できるよう、運用上の優先順位やルールをあらかじめ計画段階で整理しておく必要がある。

(ウ) 図書館との連携

前記ウ（カ）のとおり、図書館と連携した「地域資料コーナー」を設けることで、来館者が日常的な利用の中で博物館の活動や価値に触れ、より深く博物館を知ってもらえるといった意見があった。

6 今後の設計への課題

本計画では、複合施設の整備に向けて、導入機能や規模、事業手法等について整理を行ったが、今後、基本設計、実施設計に進むに当たっては、引き続き検討が必要な課題も残されている。

まず、施設全体の面積構成については、延床面積約14,500㎡という全体規模を前提に検討を進めてきたが、昨今の物価高騰に加え、単位面積当たりの単価が高い音楽ホール機能の面積を拡充したことにより、概算工事費が増加する結果となっている。このため、各機能について利用実態や運営方法を踏まえ、必要かつ十分な規模となっているかを改めて精査し、諸室面積の見直しや合理化を検討する必要がある。

また、駐車場計画については、本計画において基本的な考え方を整理しているが、必要台数の設定、配置、整備時期等については、今後の設計段階において具体化を図る必要がある。特に、市役所の来庁者駐車場と公用車駐車場については、市役所北側に平面駐車場として整備する計画としていることから、駐車台数の不足が懸念される。

また、本計画は地区計画の策定や開発行為等の都市計画上の手続を考慮する必要があり、これらの進捗状況や協議内容によっては、今後の事業内容やスケジュールが変動する可能性がある。この点も踏まえ、今後の設計段階においては、工程全体を見据えながら柔軟に対応していくことが重要である。

事業の着手時期については、前記4(7)のとおり、物価高騰が続く昨今の状況では、国や奈良県による更なる財政的支援がなければ、複合施設建設を実施することは容易ではない。複合施設の整備については、市議会や市民からも強く求める意見が寄せられていたことから、財政的な諸課題が解決される見通しが立てば実施していくべき事業であると位置付けている。そのため、国や奈良県に対し、財政支援の枠組みの拡充を要望していきながら、事業着手の時期を見定めていく。

